

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平良 勝明	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	英国や米国の最新記事や文学作品をホームページやビデオ等を介して教材として使用し、学生の英語圏への文化的理解を深めるとともに言語学習意欲も最大限刺激する教育を目指す。既卒性や在學生と小まめに連絡を取り学生の教育並びに生活・進路指導に貢献する。			0.40	最新のニュースや記事を逐次配信しているインターネットサイトやイギリスのテレビ番組その他のメディアコンテンツを利用して学生の英語圏への文化的理解の助長に努めた結果、学生の学習意欲や知識習得の向上に貢献することができた。既卒性や在學生と小まめに連絡を取り学生の教育並びに生活・進路指導に貢献することができた。		
研究	0.35	Virginia Woolfの作品における断片的かつ融合的な意識世界の展開に関する論文を執筆する。			0.35	Virginia Woolfの前衛的で流動的な意識世界を研究・分析し論文に纏めることができた。		
社会 貢献	0.20	ホームページを利用して英語の世界(言語ならびに文化)に親しみ、そして浸れるインターフェイスの構築ならびに充実を図る。地域に関わる論文の翻訳を通してローカルな文化とグローバルな文化の接点の構築、開拓に貢献する。中学校免許更新講習を通して地域の教育に貢献する。			0.20	ホームページ、そしてマルチメディアコンテンツを利用した英語の世界そしてその文化に親しむことが可能なインターフェイスの整備・充実に取り組むことができた。地域に関わる論文の翻訳を通してローカルな文化とグローバルな文化の接点の構築、開拓に貢献することができた。中学校免許更新講習を通して地域の教育に貢献することができた。		
管理 運営	0.05	入試委員として学生への広報、そして優秀な人材の獲得に貢献する。			0.05	入試委員として学生への広報、そして優秀な人材の獲得に貢献することができた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		大城 賢	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	大学英語、TOEIC演習、英語科教育法及び外国語活動等の講義においてはアクティブラーニングの手法を用いて学生主体の講義を展開する。卒業論文の指導においては学生へ適切な指導を行う。英語教育専修4年次学生の教職実践研究・実践演習を卒業後の進路と絡めて適切に行う。			0.30	教えることよりも、学生が学ぶことを常に心にとめて授業を行った。特に、英語科教育法や外国語活動の講義においては、授業後のリフレクションを大切に、授業後も学生が自ら学ぶ姿勢を維持することができるように仕組んだ。リフレクションは私自身のHPに公開し、受講生同士も共有するようにし、学び合いが深まるようにした。		
研究	0.20	文部科学省からの委託事業である「小学校英語教科化に向けた小学校教員の専門性向上のための免許認定講習の開発・実施」事業を推進し、実施の結果を報告書にまとめる。アクティブラーニングに関する論文、小学校外国語に関する論文を完成させる。			0.20	文部科学省委託を受け「免許認定講習の開発・実施」事業を遺漏なく進めることができた。共著で『小学校学習指導要領ポイント総整理(外国語)』(東洋館出版, 2017)及び『はじめての小学校英語実践ガイドブック』(開隆堂, 2017)を出版することができた。		
社会 貢献	0.40	小学校の外国語活動及び中学校、高等学校の英語指導に関するセミナーや講演活動を通じて地域への貢献を行う。			0.40	以下の教育機関の主催により英語教育に関する講演を行った; 徳島県教育センター(7月26日), 沖縄県立教育総合センター(7月30日, 8月1日), 新潟市上所小学校(9月20日), 福岡県教育センター(9月28日), 徳島県小学校英語研究会(11月17日), 鹿児島市教育委員会(12月27日), ほか。		
管理 運営	0.00	特になし。			0.00			
進路 指導	0.10	4年次指導教員として適切な進路指導を行う。			0.10	4年次指導教員として適切な進路指導を行った。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小林 正臣	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.45	①教育学部指定および英語教育専修指定の授業における英語力向上に努める。 ②上記以外の学部の授業における総合的向上に努める。 ③大学院において校種を超えた英語教育に努める。			0.45	①「大学英語」(教育学部指定クラス)などの共通教育科目では、英語に対する苦手意識を軽減するために副教材等を導入した。今後も継続して英語力の向上に向けての努力と工夫を行いたい。 ②「英米文学特殊講義I」と「比較文学」においては、英米文学だけでなく「英語文学」として幅広い視点を提示するなどの工夫をした。今後も継続していきたい。 ③「発問」によるアクティブ・ラーニングを追求し、教授法の可能性を拡大できた。		
研究	0.40	①科研費による研究成果を示すために学会誌に投稿する。 ②科研費以外による研究でも充実化を図る。			0.40	①予定した年間計画を概ね実施できた。その成果として、学会誌に投稿するための研究論文を執筆中である。 ②学会誌に投稿した研究論文は、残念ながら不採用であったが、査読に基づくコメントを今後の研究に役立てたい。		
社会 貢献	0.05	①学外からの依頼で幼稚園免許取得希望者への英語教育を定期的に行う。			0.05	①学内では教えることが稀有である幼稚園免許取得希望者に向けた英語教育は、新たな経験を積み、知見を広めることができた。今後も継続して行うつもりである。		
管理 運営	0.10	①学生生活委員としての業務全般を遂行する。 ②図書紀要委員としての業務全般を遂行する。			0.10	①全般的な任務を行うとともに、WGIにおける頻繁な話し合いにも随時参加することで、今後に向けた具体的な取り組み課題を見出すことができた。 ②全ての投稿論文の形式・その他の確認作業を行った。及び教育学部紀要規定改定について取り組むことができた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		森 まゆみ		所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻		職 名		教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.40	本年より、ピアノ実技の授業にアクティブラーニングを取り入れ、新たな授業形態を作り出す。ピアノ実技の学習は、国内外でも、「教わる」方法が通常であるが、自ら学び、互いに研鑽しあう方法を探求することでの知識の向上、またコミュニケーション能力の向上を目標にする。前例がないため、試行錯誤しながら進めていく。				0.40	4月よりピアノⅠAB、ピアノⅡAB、ピアノ特講ABをグループ授業により、また卒業研究ABをマンツーマンでアクティブラーニングにとり組んだ。長い間徒弟関係で続けられているピアノ実技の学びを自ら行うことは、先行研究がなく、試行錯誤しながらであるが、事前事後の生徒のレポートからも良い結果が出ていることが分かった。今後、実践報告として纏めたい。				
研究	0.40	スペインの作曲家エンリケ・グラナドスの生誕150年とフェデリコ・モンポウの没後30年であるため、この2人について研究を行う。				0.40	7月27日グラナドスの150回目の誕生日に「グラナドス知られざる室内楽の世界」と題して演奏会の企画運営演奏を行い、自身では50人の声楽家と教会オルガニストの協力を得て、世界でも稀な「星の歌」の日本初演を行った。モンポウ研究については、「モンポウ研究序説」として日本スペインピアノ音楽学会で論文を5月に発表し、6月と11月にレクチャーを行った。10月18日には東京文化会館にて「モンポウ没後30年記念沈黙の音楽」と題して、スペイン大使館との共催で上原由記音ピアノリサイタルを行うことができた。				
社会 貢献	0.10	本年1月に設立した沖縄スペイン協会の活動として、スペインの文化の振興とスペインの人々と交流を行い、国際理解を深めるための例会を行う。				0.15	沖縄スペイン協会設立後、毎月の例会の企画運営を行い、自身では5月6月12月を担当し、レクチャーやコンサートを行った。5月には芸術雑誌「Act4」のコーディネーターとしてスペインに渡り、フラメンコや宝飾、建築についてのコーディネーター及び、雑誌での執筆を行った。6月には知人である「奇跡のピアニスト」館野泉氏の沖縄招聘について企画とコーディネートを行い、沖縄県立芸大の協力を得て、沖縄県立芸大の特別講座として館野泉ピアノリサイタルを実現することができ、琉球大学音楽専修の学生及び教員との交流を行った。10月にはスペインギターコンクールの審査員を務めた。				
管理 運営	0.10	「委員会委員」として管理運営に携わる。				0.05	委員会委員を務めた。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		シャイヤステ 榮子	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻
職 名				准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.30	担当科目である「音楽科教育法A&B」の指導内容と附属学校との教育実習の指導連携に取り組む。さらに、4年次必修の「教育実践研究」と「教育実践演習」では、発達障がいのある子ども達への音楽活動であった昨年度とは異なり、今学年度は西原町内の小中学校における音楽関係の部活サークルに関わり、その経営と指導方法を実践的に学び指導することになった。服部先生と協力して指導実践することになる。		0.40	「音楽科教育法A&B」では教育実習へ向けての音楽科教師としての心構え、教材分析、指導法、学習指導案作りを中心に指導できた。「教育実践研究」と「教育実践演習」では西原町坂田小学校との連携でサークルを中心とする地域の人材を活用した課外活動の構築方法を実践的に体験することを指導できた。心理臨床科学コース向けの「音楽療法1A&B」では、音楽療法系以外の学生の受講であったが、心理療法の本質の指導ができた。
研究	0.20	沖縄県内における音楽療法(教育・療育を含む)の歴史的健康を投稿。		0.10	発達障がいのある子ども達を対象にした「わらべ歌」を使ったプログラムの効果を研究した。
社会 貢献	0.10	障がい者就労支援施設「ミラソル会」のプログラムにアドバイスをする。教育実践センターのアドバイザー要員としての貢献をする。		0.10	障がい者就労支援施設「ミラソル会」へ「音楽療法1A&B」の受講生を実践演習として派遣する事ができた。
管理 運営	0.40	音楽教育教室主任として、教室運営等に関わる		0.40	音楽教育教室主任としての教室運営業務は多忙であった。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名前	岡田 恵美		所属	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職名	准教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・学生支援	0.50	1) 学生の活発な意見や積極的な授業参加が促進されるようなアクティブラーニングを導入した授業デザイン 2) 映像・音響教材やPPTを使用した視聴覚効果の高い授業プレゼンテーション 3) 教員採用試験を意識した授業内容および採用試験対策に関する支援 4) 学生と教員による共同プロジェクトの推進 5) 4年次指導教員としての学業面・生活面での意見聴取やサポート	0.50	1) 国際交流・海外での沖縄文化の発信を目的としたプロジェクト型授業の実施 前期の「応用音楽学Ⅰ」では、全学部学生を対象としたプロジェクト型授業を実施し、様々な学部から約30名が受講した。その受講者と共に、琉球空手やエイサー、紅型など沖縄文化の要素を取り入れた音楽チームを結成し、10月には台湾の台北市で行われた国際的なアートと音楽の祭典「夢想嘉年華」に琉球大学チームとして初参加し、学生達は音楽を通じた貴重な国際交流や沖縄文化の発信を行った。本プロジェクトに対し、本学の「GOC+ 地域実践教育推進取組 ミライカナプロジェクト」に採択され、活動資金の助成を賜った。 2) 教育研究プロジェクト・附属中学校での出前授業(全8コマ) 本学部の大学院生とともにパーカッション・アンサンブルを題材とした音楽科授業をデザインし、実際に附属中学校の1年生を対象として、11月に8回にわたって出前授業を実施した。 3) 学生の活発な意見や積極的な授業参加が促進されるような授業デザイン 今年度から学科に導入した初年度教育「スタートアップ音楽」では、各学生がグループを構成してテーマを決めて調査を行い、それを授業でプレゼンテーションする機会を設けた。学生は発表内容やプレゼン方法など、互いに刺激し合って工夫する場面も多く見られ、新たな環境での学生同士の協働作業や、自主性が高かつ対話型の学びの環境を提供できた。また、琉球大学WEBCLASSを利用して、毎授業回のワークシートやパワーポイント資料を事前にサイトにアップロードをしておいたため、学生は好きな時にダウンロードをして予習や復習ができるユビキタス環境を提供することができた。 レポートの作成においては、資料検索法やテーマの絞り方、書誌・音源情報の記載の仕方について記した手引書を作成・配布し、学生のリテラシー能力向上に力を入れた。またレポート提出においても、WEBCLASSを利用して、受講者が同システム上で、他の受講者のレポートを読み、ヒアレビューをするといった学生間での学び合いの学習も導入した。 4) 映像・音響教材やPPTを使用した視聴覚効果の高い授業プレゼンテーション 担当授業では、音源資料や映像資料、パワーポイントを効果的に用いた。また、担当している講義系科目において、各授業で使用するテキスト教材およびPPT教材をすべて独自に作成し、授業後に学習内容の振り返りが容易なように、できるだけ配布資料もWEBCLASS上に用意した。 5) 教員採用試験を意識した授業内容および教授対策に関する個別支援 専門科目においては、沖縄県の教員採用試験(中高音楽)の過去の問題傾向を分析し、一部の授業では採用試験を意識した解説も行った。 また認定試験の問題作成(小学校音楽、中高音楽)を今年度も担当した。学科の認定試験受験者に対しては、教授1次試験(中高音楽)に向けた勉強法や助言を頻繁に行い、2次試験対策として、三線の実技対策の機会を設けた。 6) 4年次指導教員としての学業・生活面での意見聴取やサポート 指導年次の学生を中心に、懇談会や進路相談を通して、学業や生活状況、卒業後の希望進路の把握を行い、重要な事項については頻繁に連絡を取った。		
研究	0.35	1) 科研究「基礎研究C」(研究代表者)の研究推進・海外調査実施 2) 所属学会・共同研究会・シンポジウムでの発表および論文投稿 3) 研究に関する出版	0.35	1) 科研究「基礎研究C」(研究代表者)の研究推進・海外調査実施 本年度は12月末にミャンマーにて研究対象であるインド・ミャンマー国境に居住する少数民族ナガの現地調査を実施した。また3月には2週間に渡り、インド北東部のナガランド州で引き続きポリフォニーの民謡に関するフィールド調査を行う。 2) 所属学会・共同研究会・シンポジウムでの発表および論文投稿 今年度は台湾の伝統文化教育についての論文、音楽科授業実践に関する論文の2本を紀要『教育学部紀要』(センター紀要)共に2月発行)に投稿している。(現在校正中) 3) 研究に関する出版物 分担執筆を行なった『インド文化事典』が、1月に丸善出版から刊行された。 4) 学会賞の受賞 2016年に出版した『インド鍵盤楽器考:ハルモニウムと電子キーボードの普及にみる楽器のグローバル化とローカル文化の再編』(単著、単行本)に対して、日本南アジア学会賞を受賞し、9月に東京で表彰された。 5) 学術シンポジウム・学術研究会の企画・実施 外部資金「宇流麻研究助成」(国際交流部門)の助成金を賜わり、6月には韓国伝統音楽「農楽(ノンアク)」に関する日本人研究者及び韓国人演奏家2名を招聘し、本学50周年記念館にてレクチャー&デモストレーションの研究会を企画・実施した。 7月には、台湾原住民ブスの子供達を通う、台湾高雄市桃源区建山国民小学校から児童・教員を総勢28名を招聘し、本学大学会館にて学術シンポジウムと児童によるミニコンサートを企画・実施した。シンポジウムでは、台湾原住民研究に関するパネリスト3名を招聘し、日本語及び中国語で台湾原住民の伝統文化の継承について最新の報告や活発な議論が交わされた。最後には、前述の「応用音楽学」受講者で結成した音楽チームと台湾ブスの児童達で音楽を通じたコラボレーションも行った。後日、県内新聞でも記事が大きく取り上げられた。		
社会貢献	0.10	1) 所属学会・委員会への参画 2) 教大協音楽部門での幹事業務ならびに全九州大学音楽学会での理事業務 3) 音楽企画・シンポジウム企画・演奏活動	0.10	1) 所属学会・委員会への参画(支部委員業務など) 11月に所属学会である「東洋音楽学会」の全国大会が沖縄で開催されたため、実行委員として運営を行なった。 上記学会の支部委員(例会担当)と情報委員として、6月と7月に定例研究会を担当した。また2月にも定例研究会を実施する。 2) 教大協音楽部門ならびに全九州大学音楽学会での理事業務 協議会に関わる承承事項の作成・回答を行い、5月の音楽部門協議会全国大会に学科代表として出席した。また、同時開催される全九州大学音楽学会の理事業務も担当した。 3) 音楽企画・シンポジウム企画・演奏活動 冲印友好協会(沖縄とインドの友好を目的とした県内の文化友好協会)と共同企画として、8月に那覇市テンプスホールにて、インド人の古典音楽奏者を招聘し、文化普及公演「銀の旋律:アミット・ロイヤル・リサイタル」を企画・監修し、当日は司会や解説役も務めた。 アジア古典芸能の普及公演として、インドネシア・バリ舞踊とインド舞踊・音楽の公演を11月に沖縄市で実施し、古典音楽の演奏を行なった。		
管理運営	0.05	1) 委員会委員における貢献(認定試験、教授対策関係など) 2) 所属学科の管理運営における貢献 3) 入試関連業務における貢献	0.05	1) 委員会委員における貢献 学部では、学生生活委員として教員採用試験セミナーの認定試験の問題作成、個別のフィードバック、2次試験対策セミナーの弾き歌い指導の講師を行った。 全学委員として、島嶼防災センター委員を担った。 2) 所属学科の管理運営における貢献 音楽棟の教室・練習室の使用管理、使用者ミーティングの実施等を担当した。 3) 入試関連業務における貢献 本年度も学部入試の問題作成や大学院入試の問題作成を行った。		
計	1.00		1.00			

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1)本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	小川 由美		所 属	教育学部 学校教育専攻 子ども教育開発専修	
職 名			職 名	准教授	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.40	<p>(1)講義を通して、音楽科授業に関する学生の実践力向上を目指す。協働的な授業デザインを行えるよう、チームでの指導案作成や模擬授業を実施し、学生相互に意見交換する場を設ける。そのことにより、授業を再構成していく力を身に付けられるようにする。</p> <p>(2)今年度より有志による「音楽科授業研究会」の実施。希望学部生(3年・4年)と大学院生(講師経験あり)を対象に、仮説生成模擬授業を通じた授業研究を行う。仮説生成模擬授業では、授業者の仮説を基とした模擬授業を参加者全員で検討し、子どもの立場で参加することで見えてきた課題をその場で検証し、授業をつくり変えていく営みである。この研究会で検証した授業を実際の現場で実施(学部生は附属学校・公私立学校での実習で実施予定)し、より実践的な授業デザイン力向上を目指す。また現場経験のある大学院生が、指導案づくりのアドバイザーとして常駐することで、学部生・院生双方の実践力向上を目指す。</p> <p>(3)平成29年度夏期研修会『授業デザイン塾』への参加。複数の教員養成大学(音楽教育)による合同合宿を行う。合宿では各大学の大学院生及び教員、現職教員が中心となって、チームによる授業デザイン及び仮説生成模擬授業を合宿形式で実施する。教材研究、授業構想といった授業実践に関する力の飛躍的な向上を目指す。</p>	0.40	<p>(1)「音楽科教育研究」(前期・後期)において、チームによる指導案作成・模擬授業の企画実施・授業分析・授業に関するプレゼンテーション等の活動を段階的に行った。特に模擬授業では、学習者側から出た違和感を共有し、その場で出た代替案を試し、問題解決していった。その結果、問題意識を共有した主体的な議論が為され、授業を指導案通りに再現するだけでなく、学習者の立場に立って再構成する営みが生まれた。このことにより、特に授業を協働的につくる点、また学習者の立場に立って学びを考える点において向上が見られた。</p> <p>(2)実習を控えた3年次・4年次および大学院生(講師経験者)の有志による「音楽科授業研究会」を実施し、仮説生成模擬授業を行った。授業者の仮説となる指導案を3人組のチームで作成し、それを基に模擬授業を実施。参加者全員で検討し、子どもの立場で見えてきた課題をその場で検証し、授業をつくり変えていった。研究会での検証で再構成した指導案で実習に臨み、より実践的な授業デザイン力に向上が見られた。また現場経験のある大学院生が、指導案づくりのアドバイザーとして参加したことで、学部生・院生双方の実践力向上が達成された。本研究会で考案した指導案は冊子にして、配付予定である。</p> <p>(3)平成29年度夏期研修会『授業デザイン塾』に大学院生と共に参加(2017年8月26-27日、アビカルイン京都)。チームによる授業デザイン及び仮説生成模擬授業を合宿形式で実施した。これまで学校現場で扱われることが少なかった鑑賞教材や歌唱・器楽の教材研究を協働で行い、新たな形での授業をデザインし提案することができた。</p> <p>(4)学校教育専攻共通科目「体験『子どもの世界・学びの世界』」の一環で、NPO法人うていーらみや主催の「2017わらべうたフェスタ」を琉球大学附属小学校で開催(2017年11月23日)。学校教育専攻1年次13名とともに参画し、様々な場での子どもの実態に触れ、子ども理解を深めていく体験活動を行った。</p>	
研究	0.30	<p>(1)学会発表(日本学校音楽教育実践学会第22回全国大会8/19/20)</p> <p>(2)研究発表(全日本音楽教育研究会[全日音研]大学部会11/1/2)</p> <p>(3)論文寄稿(日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育実践論集』、『琉球大学学術部紀要』)</p> <p>(4)日本学校音楽教育実践学会編纂の実践学事典発刊(分担執筆、2017年8月発刊予定)。</p>	0.20	<p>(1)日本学校音楽教育実践学会第22回全国大会(於:聖徳大学、2017年8月19-20日)にて、自由研究「小学校低学年における郷土音楽学習の可能性-生活に根付くカチャーシーの身体性に着目して-」を口頭発表。</p> <p>(2)全日本音楽教育研究会[全日音研]大学部会(於:沖縄産業支援センター、11/1/2)にて、「沖縄の『郷土の伝統音楽』を学習材としていくための授業デザイン-大学と附属学校との連携事業における事例を通して-」を口頭発表。</p> <p>(3-1)日本学校音楽教育実践学会『学校音楽教育実践論集』第2号に、個人研究「小学校低学年における郷土音楽学習の可能性-生活に根付くカチャーシーの身体性に着目して-」を寄稿(2018年3月発刊予定)。</p> <p>(3-2)平成29年度全日本音楽教育研究会『大学部会誌』に、「沖縄の『郷土の伝統音楽』を学習材としていくための授業デザイン-大学と附属学校との連携事業における事例を通して-」を寄稿(2018年発刊予定)。</p> <p>(4)日本学校音楽教育実践学会編『音楽教育実践事典』分担執筆(2017年8月発刊)。</p>	
社会貢献	0.20	<p>(1)関西音楽教育実践学研究会における研究発表及び教員養成系大学院生の指導(月1回、大阪教育大学にて開催)</p> <p>(2)日本学校音楽教育実践学会全国大会における学会活動(常任理事、副事務局長、『学校音楽教育研究』『学校音楽教育実践論集』副編集委員長、第22回全国大会運営)</p> <p>(3)日本学校音楽教育実践学会主催の学会企画である「授業開発プロジェクト」として、京都の公立小学校教員、他大学教員と協働で新しい音楽授業をデザインし、実践検証する。検証された授業は学会にて模擬授業の形で提案され、さらに学会参加者とともに新しい形につくりかえ発信予定。</p> <p>(4)全日本音楽教育研究会[全日音研]全国大会(沖縄大会)大学部会の運営</p>	0.20	<p>(1-1)関西音楽教育実践学研究会における研究発表及び教員養成系大学院生の指導(月1回、大阪教育大学にて開催)。</p> <p>(2)日本学校音楽教育実践学会全国大会における学会活動(常任理事、副事務局長、『学校音楽教育研究』『学校音楽教育実践論集』副編集委員長、第22回全国大会運営)。</p> <p>(3)日本学校音楽教育実践学会主催の学会企画である「授業開発プロジェクト」として、京都の公立小学校教員、他大学教員と協働で新しい音楽授業をデザインし、実践検証をした。検証された授業は学会にて模擬授業の形で提案され、さらに学会参加者とともに新しい形につくりかえ発信した。その成果を、『学校音楽教育実践論集』第2号に「だれもが主体的に取り組む歌唱の授業(第3年次)-文化的側面を経験として位置づける歌唱の授業-」(分担執筆)として寄稿。</p> <p>(4)全日本音楽教育研究会[全日音研]全国大会(沖縄大会)大学部会の運営。</p> <p>(5)NPO法人うていーらみや主催の「2017わらべうたフェスタ」にて、講演会「地域素材の活用-沖縄のわらべうた-」を実施。</p>	
管理運営	0.10	<p>(1)教育実習委員として、学生の介護等体験・教職体験ⅠおよびⅡ、附属学校教育実習、公私立学校実習等の実習の円滑な運営を目指す(部会は介護等体験)。昨年度に引き続き副委員長として運営に携わる。</p>	0.20	<p>(1)昨年度に引き続き副委員長として教育実習委員の運営に携わった。学生の介護等体験・教職体験ⅠおよびⅡ、附属学校教育実習、公私立学校実習等の円滑な運営を図った(部会は介護等体験)。</p>	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	松本 由香		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	
職 名			職 名	教授	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.35	生活科学および被服学の専門科目の授業準備を充分に行い、専門性の高い教育を行う。そして受講学生の授業目標の達成をはかる。また教育実践学専修4年次の担任として、学生生活全般をきめ細かくケアする。さらに生活科学教育専修主任として、生活科学教育専修1～4年次学生の教育・学生支援を総括する。	0.35	生活科学および被服学の授業研究を充分に行い、また卒業指導を毎週および必要に応じて随時行って、専門性の高い教育ができたと思う。特に前期の衣生活学特講では、アメリジアンスクールでの家庭科教育、また後期の服装文化論では、沖縄の染め織り教育を、COC事業授業改善事業に採択していただき、実践的な授業を行ってきた。教育実践学専修4年次の担任として、学生の生活のケアを行ってきた。特に授業履修に課題のある学生3名を個別にケアしてきた。保護者とも緊密に連絡を取り合い、授業に臨めるよう、継続的に支援してきて、その効果は、学生の状況から認められると思う。生活科学教育専修の学生については、1～4年次学生に主任の立場から学習支援に務めた。また現在、沖縄ファッショングランプリに作品を応募する学生の衣服製作の支援を行っている。これは2月上旬のファッション・ショーに出品するもので、製作している学生は、創作の楽しさを体験し、学生にとって、家庭科の実践的学習としても大変有意義であると思う。	
研究	0.30	科研費研究として行っている沖縄の染め織りの現在について、今年度は経済性の視点から調査研究を行う。具体的には、石垣島、竹富島、西表島、本島南風原町の染め織りを取り上げる。今年度前期、地域志向教育推進事業として、アメリジアンスクール・イン・オキナワで家庭科の出前授業を学生と行っている。その教育内容についての研究を継続して行っていきたい。また被服創作教育について、卒業ゼミの学生とともに研究を始めている。沖縄に特徴的な藍染め、紅型などの特に染めを教育に取り入れる方法、その意義について考察していきたい。さらに附属小学校との共同研究で、被服領域研究を行う予定であり、小学校での家庭科教育の内容について考察していく予定である。	0.30	昨年5月27日に、奈良女子大学で開催された日本家政学会第69回大会で、「沖縄の染め織りと暮らしの持続性に関する研究—地域文化をどう探求・表現するかを教材化するために—」として、科研費で現在研究中のテーマの研究発表を行った。その内容を現在、教育学部紀要に投稿しており、2018年3月刊行の第92集に掲載予定である。科研費研究として、今年度の計画通りに石垣島、西表島、竹富島、南風原町の染め織りを調査研究し、「経済性の探求」という視点で考察を行ってきた。それを報告書にまとめ、2018年5月に日本女子大学で開催される日本家政学会大会で研究発表する予定である。またその内容を教育学部研究紀要等に投稿を予定している。アメリジアンスクールでの教育を実践してきて、その考察を、『教育学部紀要』第91集2017年9月に「アメリジアンスクール・イン・オキナワにおける衣生活領域の教材提案」pp.129-148として公表した。被服創作教育については、藍染め、紅型を教材に取り入れる研究を行い、後期の「服装文化論」、「沖縄生活文化論」の専門教育科目で教育してきた。今後、これらの教材研究をさらに進め、魅力ある授業展開をさらに進めていきたいと思う。また附属小学校との共同研究で、家庭科衣生活領域のミシン縫いの題材での授業の進め方を研究している。小学校家庭科教育の内容について、さらに考察していきたい。	
社会貢献	0.10	小・中・高等学校を対象にした教員免許状更新講習での衣生活をテーマとする講習会の実施、一般を対象にした被服構成実習の公開講座を実施する予定で、広く地域社会に被服学および被服構成実習を教育する。アメリジアンスクール・イン・オキナワでの家庭科出前授業は、社会貢献の意味もあるので、学生と地域とを結びつける本活動を充実して行っていきたい。	0.10	昨年8月と9月に、教員免許状更新講習、また公開講座を開催して衣生活領域を取り上げ、藍染めのワンピースづくりを講座で行った。どちらの講習も、受講者からの評価が高く、興味深く意義深いという講習後の評価をいただいた。さらに授業展開の工夫を重ね、より興味を深くもってもらえる講習・講座を提供していきたい。前期には、アメリジアンスクールでの家庭科出前授業を行い、スクールへの家庭科科目を提供してきた。今後もこの取組みを継続して学生とともに行っていきたい。さらに学会活動として、今年度から、日本風俗史学会の理事および九州支部長に就任し、学会の運営に携わっている。昨年12月には、九州支部例会を本学で開催し、本部町伊豆味の琉球藍をテーマに、現地に行き、藍染め体験を行うなどの活動を行った。今後も本学会活動を充実して行いたい。また来年度、日本風俗史学会大会を、本学で開催する予定で計画し始めており、大会開催に向けて準備を進めていきたい。	
管理運営	0.20	生活科学教育専修主任として、教室の管理・運営、学生の教育・生活支援などの職務を遂行する。また教員同士、学生同士、教員と学生、学部との橋渡しを円滑に行う。さらに新カリキュラムでの学生教育が円滑に進むように留意する。教育実践学専修の学生生活委員として、学生生活全般にかかわる問題、課題解決をはかり、充実した学生生活が営めるよう、学生の支援、教室での運営を行う。	0.20	生活科学教育専修主任として、教室の管理・運営、学生の教育・生活支援などの職務を行ってきた。教室会議の運営、教員間の連携、学生生活のケアなど、広範囲にわたって留意し、課題・問題解決、調整を行った。今年度、教育実践学専修から生活科学教育専修に異動し、主任としてほぼ毎週開催してきた教室会議の運営は大変であったが、生活科学教育の教科目や教員の専門分野などについて考える機会が得られ、生活科学教育の内容や目標、学生指導などについて学ぶことが多くあり、大変有意義であったと思う。また同時に、教育実践学専修の学生生活委員として、学生生活全般を管理し、必要な学生には個々の相談のケア、支援を行った。	
進路指導	0.05	ゼミおよび担任の学生の進路の選択について、親身になって助言を行う。特に教員採用試験に臨み、試験対策などの具体的な支援を行う。	0.05	生活科学教育専修と教育実践学専修の学生のゼミや教育実践学専修の4年次担任として、学生の話をよく聞き、進路の選択について、親身になって助言を行ってきた。教育実践学4年次では、卒業研究が進まない学生が2名いて、また他の1名については、現在3年次の授業を履修しているが、継続して就学するように、保護者とも連携してケアを継続的に続けてきた。また生活科学教育専修と教育実践学専修3年次学生には、教職の意義や魅力について、日常的に話し、学生の進路選択へのアドバイスをを行った。中学校家庭科教員採用試験の2次試験に課される衣服のミニチュア製作を、「衣生活の科学」の授業で取り上げて行い、2次試験対策として学生を支援した。	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	島袋 恒男		所 属	教育学部 学校教育専攻子ども教育開発専修		職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	①授業の「出欠・振り返り票」を作成し出欠の確認と授業の振り返りをさせる。学生の成長・就職に関する話題・資料を講義で取り上げ、わかりやすい授業に取り組む(pp t、ビデオ、学生への問いかけの重視等)。授業で「ショートレポート」により書く力・まとめる力の育成。②演習・卒論・大学院研究指導で学生の意欲・意見を重視し主体的な学びを育成する。統計指導に基づく研究指導を重視する。③必要に応じ学部の就職支援に参加する④懇談会等・学生の求めに応じて就職相談・採用試験の相談・情報提供をする。⑤エントリーシートや志望理由書の添削指導を実施する。		0.30	出席票により毎回出席をチェック、各時間簡単なリフレクション実施。主にPPTによる授業の実施。ビデオにより青年心理学では青年期の発達・職業、進路指導の心理学では高校進路指導とキャリア教育の実際を取り上げ学習に取り組ませ、記述・まとめる力の育成を重視。統計は演習重視。卒論1人・修論1人指導論文完成。3年生を就職センター「教授セミナー」に紹介。		
研究	0.25	①学力向上の実践に関するデータの学会発表を行い論文として公表する。②大学生のキャリア教育と支援に関する研究に取り組む。③前年に引き続き学外との学力向上の連携に取り組む。教委と連携し児童生徒の学習行動と意欲の調査分析を行う。		0.20	「学力向上に関する研究発表1件(日心)」。高校生の進路に関連する発達の論文を紀要に発表。その他小学校企画に参加。校内研修会参加。		
社会 貢献	0.25	①小学校数校の学力向上に関して連携し実践する(予定) ②必要に応じ学力向上・キャリア教育に関する教育委員会と学校現場への支援・研修等に従事する ③小学校学校評議員に従事する。アドバイザーに従事。⑤教育委員会の各種委員会に参加する。		0.25	3小学校の「学校評議員」に従事し授業研究に参加。1高校「学校評議員」に従事。県「公私立高校協議会」に従事。県教委「教員選考改善委員」「教育基本計画作成委員」那覇市「青少年協議会委員。県産業教育審議会、県教育委員会点検・評価委員会委員。沖縄県振興審議会専門部会委員に従事。放送大学客員教員。「教育委員会の点検・評価委員会」委員に従事。		
管理 運営	0.20	①大学院コース主任(代)、学生生活委員会(代)、4年次指導教員 全学営利企業兼業審査委員会委員。遠隔授業による教育効果等検証委員会		0.25	4年次指導教員。全学営利企業兼業審査委員会委員。ICT機器を活用した遠隔授業による教育効果等検証委員会委員		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		上地 完治	所 属		教育学部 教育実践学教室	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	今年から開設される学校教育専攻必修科目「子どもの世界 学びの世界」および「理解と表現の基礎的スキル」の担当回の授業開発をおこなう。また、教職必修科目「道德教育の研究」と「教育原理」について、学生の主体的で協働的で深い学びを意識して授業構成を工夫する。さらに、大学院生(M1)2名の指導に力を入れる。			0.30	新設授業科目の授業開発をおこない、来年度につなげることができた。また、教職科目について、一定の授業改善がおこなえた。大学院生の指導に力を入れることができたが、学部4年生の卒論指導については、5名という人数もあって、十分な指導ができたとは言えなかった。		
研究	0.35	研究分担者となっている「道德の教科化に対応する社会科シティズンシップ教育における道德性指導の改革」(基盤研究C)と、今年から研究代表を務める『『多面的・多角的に考える道德』『議論する道德』に関する教育思想史的研究』(基盤研究C)に取り組む。			0.15	2つの科研とも、研究計画通りには研究を進めることができなかった。		
社会 貢献	0.25	道德の教科化や道德授業改善に関する校内研や研究会に積極的に講師として参加し、学校現場の道德授業改善に貢献する。具体的には、附属学校を含めてのべ20回の実施を目標とする。			0.30	道德教育に関する校内研、研究授業を29回おこなった。		
管理 運営	0.10	教員免許状更新講習実施室長、教員養成運営協議会委員、教育実践学教室主任として、大学の管理運営に関わる。			0.25	教員免許状更新講習実施室長、教員養成運営協議会委員、教育実践学教室主任に加えて、7月より教職センター副センター長として、大学の管理運営に関わり、予想以上のエフォートを割くことになった。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	清水 洋一		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.35	1)前期・後期合わせて学部14科目(卒業研究Ⅰ・Ⅱ含む)の講義・実習等を行う。2)卒業研究1名及び修士論文1名の指導を行う。3)附属中学校の研究授業の支援や教材開発を協同で行なう。4)外国人留学生(研究科1名)の指導教員を務める。5)教員採用試験対策の一環として、講義・実習等を通して、関連する過去問題について解説する。		0.30	1)前期・後期合わせて学部14科目(卒業研究Ⅰ・Ⅱ含む)の講義・実習を行った。2)卒業研究1名の指導を行った。大学院生は指導できず(授業料未納により退学)。3)附属中学校の研究授業や教材開発を支援した。4)外国人留学生の退学により修論指導ができず。5)全国地球温暖化防止活動推進センター事務局長を招聘し、特別講義を実施した。6)教員採用試験対策の一環として、講義・実習等を通して、関連する過去問題について適宜解説した。
研究	0.35	1)日本エネルギー環境教育学会、日本産業技術教育学会等において研究発表を行う。2)沖縄エネルギー環境教育研究会の代表を務め研究・教育実践を行う。3)沖縄エネルギー教育地域会議の代表を務め研究・教育実践を行う。4)海洋エネルギーに関する教材開発及び教育実践を行う。5)昨年度科研費助成事業で採択された挑戦的萌芽研究を推進する。		0.40	1)日本エネルギー環境教育学会第12回全国大会、日本産業技術教育学会第60回全国大会、同学会第30回九州支部大会にて研究発表を行った。2)沖縄エネルギー環境教育研究及び沖縄エネルギー教育地域会議の代表を務め研究・教育実践を行った。3)上記研究会主催で、中学校教員を対象に青森県と鹿児島県のエネルギー関連施設の見学会・意見交流会を実施した。4)エネルギー(海洋を含む)に関する教材開発及び教育実践を行った。5)科研費助成事業(挑戦的萌芽研究)の一環で、中学校2校において出前授業を行った。
社会貢献	0.20	1)平成29年度琉球大学公開講座を実施する。2)小・中学校等で出前授業を実施する。3)沖縄の産業まつり、県民環境フェア等にて、エネルギー環境教育に関する普及・啓発活動を行う。4)琉球大学生協・理事長を務める。5)那覇市温暖化対策協議会・会長を務める。6)環金武湾地球温暖化対策地域協議会・会長を務める。7)沖縄地方コージェネ協議会・会長を務める。8)沖縄ハワイクリーンエネルギー協力推進事業・海洋エネルギー技術交流等推進委員会委員を務める。9)教員免許状更新講習の講師を務める。10)沖縄県委託事業・サイエンスリーダー育成講座の講師を務める。11)沖縄青少年科学作品展のアメリカンスクール作品審査会・委員を務める。		0.25	1)平成29年度琉球大学公開講座を2回実施した。2)さつき小、大竹小、仲里小、多良間中、大原中で出前授業を実施した。3)しきなっ子祭り、那覇市環境イベント、サイエンスフェスタinなご、県科学人材育成事業体験会in伊江島にて、エネルギー環境教育に関する普及・啓発活動を行った。4)琉球大学生協・理事長を務めた。5)那覇市温暖化対策協議会・会長を務めた。6)環金武湾地球温暖化対策地域協議会・会長を務めた。7)沖縄地方コージェネ協議会・会長を務めた。8)沖縄ハワイクリーンエネルギー協力推進事業・海洋エネルギー技術交流等推進委員会委員を務めた。9)教員免許状更新講習の講師を務めた。10)沖縄県委託事業・サイエンスリーダー育成講座の講師を務めた。11)沖縄青少年科学作品展審査会・アメリカンスクール作品部門・部門長を務める。
管理運営	0.10	1)全学エコロジカルキャンパス推進委員会委員を務める。2)共同研究推進委員会委員を務める。3)全学学士教育プログラム委員会教育学部委員を務める。4)財務・施設管理に関する自己点検・評価委員会委員を務める。		0.05	1)全学エコロジカルキャンパス推進委員会委員を務めた。2)共同研究推進委員会委員を務めた。3)学部教務委員及び全学学士教育プログラム委員会教育学部委員を務めた。4)財務・施設管理に関する自己点検・評価委員会委員を務めた。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小野寺 清光	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	①電気電子系講義に関し、実践的な教育力を養うことを目的に、学生自ら教材開発が構想できる実習内容を積極的に取り入れていく。また、新たに担当となる共通教育科目「情報科学演習」にて小学生プログラミング指導関連項目を導入する。 ②附属中体験授業を実施する。 ③学部学生指導主任として、就職支援・進路指導に取り組む。また、専修内では3年次指導教員として学生指導を行う。		0.30	①電気電子系講義に関しては、仕様を提示し、学生自らが試行錯誤してその機能を実現する回路等を考える実習を増やした。また、共通教育科目「情報科学演習」では、ホームページ作成やビジュアル言語Scratchによるプログラミングを導入した。 ②附属中3年生を対象に、「振動力発電でLEDを点滅させよう」と題し、身近な電化製品で汎用されている圧電素子を体験する特設授業を実施した(11月)。 ③学生生活委員会委員長として、教員採用試験対策セミナーや認定試験の運営を継続的に推進した。今年度も学生有志を募り、教採に関連する新たな取り組みとして、外部講師による模試解説を導入した。		
研究	0.20	①中学生に対するプログラミング教育環境の構築および、プログラミングによる計測・制御教材の研究開発を行う。 ②LEDや圧電素子を用いたエネルギー変換に関する教材開発を行う。		0.20	①プログラミング教材関連については実施しなかった。 ②中学校技術の風力発電教材開発と小学校理科のスピーカー教材開発に関する研究を学会発表した(10月)。風力発電教材については論文投稿も行った。		
社会 貢献	0.10	①教員免許状更新講習(7月)の講師として現職教員教育に貢献する。 ②日本産業技術教育学会九州支部理事として学会運営に取り組む。		0.10	①「LEDを用いた実験とものづくり」と題して、小学校から高校教員に対し、教員免許状更新講習を実施した(7月)。 ②日本産業技術教育学会九州支部理事として学会運営に取り組んだ。九州支部大会にて発表された1件の論文の査読を実施した。		
管理 運営	0.40	①副学部長及び学校教育教員養成課程長として、学部運営・将来構想企画に取り組む。 ②学生生活委員会委員長として、委員会の円滑な運営に取り組む。		0.40	①副学部長として、学部運営・将来構想企画に取り組んだ。大学機関別認証評価に係る自己評価の自己点検および評価書作成にも取り組んだ。 ②学生生活委員会委員長として、年間7回の委員会を開催し、学生の生活指導・就職学修支援等に関わる運営に取り組んだ。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		福田 英昭	所 属	教育学部 技術教育教室	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	①「職業指導」(前期および夏の工学部集中講義)の毎回の講義内容を公開するため、研究室のホームページを毎週更新する。②6年前から新設開講された前期の「小学校ものづくり実習Ⅰ」および後期の「小学校ものづくり実習Ⅱ」の講義と、本年度から新設された前期の「ものづくり概論」の新規教材開発を行う。③研究成果の内容を「木材材料学」の講義内容に反映させる。④後期の講義「ものづくり」において、新規の製作題材を開発する。⑤1年次の指導教員として、技術教育専修学生の履修指導等を行い、進路相談を行う。⑥「職業指導」の講義で受講学生に最新の就職関連情報を提供する。⑦技術教育同窓会の書記・会計担当者として企画・運営を行い、また、技術教育専修の卒業生の動向をチェックし、会員データベースを最新のものにする。		0.30	①「職業指導」(前期および夏の工学部集中講義)の毎回の講義内容を公開するため、研究室のホームページを毎週更新した。②「小学校ものづくり実習Ⅰ・Ⅱ」は、新カリキュラム移行期のため休講となった。③研究成果の内容を「木材材料学」に反映させた。④講義「ものづくり」では、学生たちに新規で箱カメラ、ランプシェード、潜望鏡など24製作題材を発表してもらった。⑤1年次指導教員として、1・3研究会に参加し、履修指導や進路相談を行った。⑥「職業指導」のゲストティーチャーとして、前期はSMBC職員、集中講義ではリクルートキャリア職員を招聘した。⑦技術教育同窓会の書記・会計担当者として会員名簿の更新を行った。⑧新規に「教育実践ボランティアⅢ」を開講し、中城村の小学校3校の放課後子ども教室の教育支援活動を行った(受講生10名)。	
研究	0.25	①研究室の紹介および研究成果を紹介するため、研究室のホームページを更新する。②前村(社会)、岡本(技術)、仲間(美術)先生と共に6年前からスタートした紙漉き研究会を継続し、紙漉きの新しい教材・教具(簀笥など)を開発し、地域の小・中・特別支援学校で紙漉き体験学習を実施する。また、紙漉きに関する論文を学部紀要等に投稿する。③教育学部プロジェクトとしての戦略的教育支援等推進経費申請事業「教員養成カリキュラムを補完する、児童生徒支援を兼ねた多様な教育活動の展開」の中で、紙漉き体験学習を実施する。④東京書籍株式会社の中学校教科書「技術・家庭科」編集協力委託委員を担当し、教科書の編集を行う。⑤「沖縄ものづくり塾」の設立に向けて、株式会社トリムの坪井社長と協働して、検討会を行う。		0.20	①研究室のホームページでは「職業指導」関連の更新は頻繁に行っていたが、研究室紹介と研究成果紹介の更新は不十分であった。②前村・仲間・岡本先生と共に進めている紙漉き研究会を継続し、9月には教職員・一般向けに和紙づくり工程が体験できる研修会(3日間)を大学で開催し、20名が参加した。また、11月には美咲特別支援学校はなさき分校における紙漉きによる卒業証書製作を支援することができた。③本年度は、教育学部プロジェクトは採択されず、農学部で鬼頭誠教授と共に学内の戦略的研究推進経費を獲得し、紙漉きの教材開発を行った。④東京書籍の中学校教科書「技術・家庭科」編集協力委託委員を担当し、教科書の編集を行った。⑤「沖縄ものづくり塾」については、トリム社の坪井社長と協議し、工場見学等を行ったが、まだ設立に漕ぎ着けていない。⑥3月に平成29年度沖縄美ら島財団助成事業研究会に参加し、アオガビ栽培と和紙製作の教材化について口頭発表を行った。	
社会 貢献	0.15	①沖縄県立芸術大学において開講される「図法及び製図」(通年)の非常勤講師を担当する。②教育学部が連携協定を結ぶ市町村の教育委員会と連携して、小・中学校の校内研究会や研修会、児童生徒の学習支援等をサポートする。③教育学部のアドバイザースタッフ派遣制度による依頼受付・調整と派遣実施を総括し、県内の小・中・高校・特別支援学校の活動を支援する。④日本木材学会九州支部の理事および評議員を担当する。⑤第3回琉球新報教育賞の選考委員(5月～12月)を担当する。		0.15	①沖縄県立芸術大学で「図法及び製図」を通年で担当した。②教育学部が連携協定を結ぶ市町村の教育委員会と連携し、小中学校の校内研究会や研修会、大学生による学習支援ボランティア活動をサポートし、各地域での教育委員会と教育学部の連携推進会議に参加した。③教育学部のアドバイザースタッフ派遣事業のパンフレットを作成して各教育機関へ配付し、県内の小中高校と特別支援学校の取組を支援した。④日本木材学会九州支部の理事および評議員を担当したが、本年度は会議への参加はできなかった。⑤第3回琉球新報教育賞の選考委員を担当した。⑥日本産業技術教育学会誌九州支部論文集の査読3件を担当した。⑦1月の琉球大学COC+事業による「地域円卓会議in中城村」においてパネリストとして出席した。	
管理 運営	0.30	①技術教育専修の教室主任を担当する。②教育学部附属教育実践総合センター長として、教育実習、介護等体験実習、地域連携事業の企画・運営をする。③琉球大学の教員養成運営委員会(全学)と地域連携推進会議委員会(全学)の委員を担当する。④学部運営会議の委員として企画・運営をする。⑤日本教育大学協会九州地区技術教育部門の全国委員を担当する。⑥6月開催の教大協九州地区技術教育部門研究協議会に大学代表として出席する。⑦学部の教員選考調書作成委員として、幼児教育と実践センターの採用人事を担当する。		0.35	①技術教育専修の教室主任を担当した。②教育実践総合センター長(教育実習委員長)として、教育実習、介護等体験実習の企画・運営を担当し、3月に、地域連携事業部門の成果報告交流会を開催した。③7月に教職センターが設立され、そのセンター長として規程・内規づくりに参加した。また、沖縄県公立学校教員養成協議会(年2回)に出席した。④学部運営会議の委員として企画・運営を行った。⑤教大協九州地区技術教育部門の全国委員を担当した。⑥教大協九州地区技術教育部門研究協議会に出席した。⑦学部の教員選考調書作成委員として、幼児教育と実践センターの教員採用2件を担当した(幼児教育では選考委員長を担当)。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新垣 学	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名	講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.50	<ul style="list-style-type: none"> ・組込型コンピュータを利用した教材を授業に取り入れる。 ・学生が学習結果を発表および卒業後も復習できるように、ホームページを製作する能力を養成するとともにその更新を支援する。 ・学生へ学習環境を提供するため、ネットワーク及びコンピュータの管理。 ・教育実習生への指導・助言を行う。 ・4年次指導教員の業務を行う。 ・就職支援のために認定試験問題の作成を行う。 		0.45	<ul style="list-style-type: none"> ・組込型コンピュータを利用した自立走行車の製作を授業に取り入れた。 ・学生が学習結果を発表および卒業後も復習できるように、ホームページを製作する能力を養成するとともにその更新を支援した。 ・学生へ学習環境を提供するため、ネットワーク及びコンピュータの管理を行った。 ・教育実習生3名の授業を観察し、指導・助言を行った。 ・4年次指導教員の業務として学務からの案内の連絡、懇談会等を行った。 ・認定試験問題として中学校技術および一般教養の情報と、中学校技術の栽培分野の問題作成を行った。 ・オープンキャンパスにおける学生のロボット作りへのアドバイス及び自ら製作・参加することで学生を鼓舞した。 	
研究	0.45	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を鑑みた組込型コンピュータを利用した教材開発。 ・教員免許更新講習用教材の開発 		0.45	組込み型コンピュータを利用して盲者への空間伝達(どの方向に障害物があるかを知らせる)装置の試作を行った。	
社会貢献	0.00			0.00		
管理運営	0.05	審査委員会の委員としての業務を行う。 入試に関する業務を行う。		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・発明審査委員会の委員として業務を毎月行った。 ・ICT機器を活用した遠隔授業による教育効果等検証委員会にて評価書の作成に携わった。 ・入試に関する業務を行った 	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	萩野 敦子		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻		職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	①担当する学部および大学院の授業において、アクティブ・ラーニングを意識しながらシラバスに掲げた目標への到達をめざす。②古典文学で卒業論文を執筆する学生の論文指導を行う。③4年次の指導教員としての責務を全うし、一人でも多く教員採用試験に合格できるよう、小論文等の指導を行う。また、認定試験の作成を行う。④学生が教育現場と結びつく活動を通して、教師としての実践力を高められるよう支援する(プラクティススクールの実施や小中学校での学習支援など)。		0.30	年度目標に即して下記のとおり活動した。①担当する学部および大学院の授業において、アクティブ・ラーニングを意識した授業を展開した。②古典文学で卒業論文を執筆する学生の論文指導のほか、副査を務めた学生にも細かく指導した。③4年次および卒業生等の教員採用試験対策として小論文等の指導を行った。また認定試験「国語」問題作成の中心を担った。④学生が実践力を高められるよう支援した(プラクティススクールの実施や浦添中学校での学習支援の引率)。		
研究	0.25	①科学研究費助成研究「琉球和文学の注釈研究とそれを活かした教材開発」を着実に進める。今年度は主として、琉球時代の和歌文学の研究を行う。②国語教科書の古典ないしは伝統的な言語文化に関する教材のありようについて論文を執筆する。		0.20	依頼等により年度目標とは異なる展開となった。①西日本国語国文学会(9月)のシンポジウム「これからの学生の古典文学教育」に登壇し、機関誌投稿用に論文化した。②石垣市の中学校現場における学習会(8月)のため新学習指導要領に沿った中学校国語教育について考究した。③狭衣物語研究会(8月)の輪読会で発表した。④科学研究費助成研究「琉球和文学の注釈研究とそれを活かした教材開発」について、平敷屋朝敏「貧家記」の注釈研究をまとめている。		
社会 貢献	0.20	①石垣市立中学校および浦添市立小・中学校に対して、教育研究を支援し、教育現場との協働を深める。②放送大学(対面型授業)に講座を提供する。③アドバイザースタッフとして、要望があれば授業現場等での助言などを行う。④琉球新報社「高校生読書体験記コンクール」審査員を務める。		0.25	年度目標およびそれに加えて下記のとおり活動した。①COC+事業の一環として石垣市立大浜中学校との協働研究において連絡・調整役を務めた。②放送大学(対面型授業)に講座(源氏物語の世界)を提供した。③浦添市立浦添中学校の学習支援ボランティアを学生と行った。④プラクティススクール「コックさん学校」で、近隣の児童(4年生)に対する教育活動を行った。⑤琉球新報社「高校生読書体験記コンクール」審査員を務めた。⑥九州地区中学校国語教育研究大会において指導助言を務めた。⑦中古文学会委員、西日本国語国文学会地区委員を務める。		
管理 運営	0.25	①全学的には、ジェンダー協働推進室副室長および学術研究助成金選考委員会委員を務める予定なので、それらの責務を全うする。②学部内では、教育委員会と入試委員会委員の責務を全うする。後者については、教科教育部会長を務める。また、大学院の将来構想WGとして活動する。③以上の他、適宜委員会委員としての責務を全うする。		0.25	年度目標に即して下記のとおり活動した。①全学/ジェンダー協働推進室副室長および学術研究助成金選考委員会委員を務め、責務を全うした。②学部/教育委員会と入試委員会委員の責務を全うした。後者については、教科教育部会長を務めた。前学期は大学院の将来構想WGを務めた。③上記以外の職務において長として中心を担った。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	武藤 清吾		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻 職 名 教授	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.50	教科教育担当教員として、授業の充実及び専修所属学生・院生ならびに他学部・専修学生の学習活動の支援を行う。2年次担当教員として、学生生活の充実と学習活動のための指導助言を行う。	0.50	7月に文部科学省教科書調査官を招いて、新学習指導要領研究会を開催した。学生、附属小中教員など20名が参加した。8月に、第2回学びのゆいまるを開催した。卒業生教員、現役院生学生30名の参加で、3名の小中高教師から国語教育実践を学んだ。また、県外から研究者1名を招いて講演を聞いた。国語科教育法などの講義科目、ことばの教育演習などの演習科目を開講して学生の学習活動を支援した。国語及び教育実践学の教育実習生の指導を行い、附属小中、県内高校3校(那覇国際、首里、球陽高校)を訪ねて指導した。7月には宜野湾高校の1、2年生の琉大体験学習を受け入れて、2年次学生と交流学習会を行った。11月には教職実践演習受講生を中心に中城南小の授業を参観した。また、法文学部の国語科教員免許取得希望者の指導を行った。その際、国語科教育法では、学生による授業評価を毎回行い、その意見を毎時の授業通信に反映した。模擬授業準備に必要な指導助言を授業外で多くの時間を割いて行った。演習科目受講生、院生と合宿を行い、学生の学習活動を支援した。研究科院生2名には、修士論文指導、文献探査指導など授業以外の個別指導を繰り返した。また、2年次担当教員として、学生生活を充実させるための面談を2回実施した。主体的な研修機会を持たせるために、平和記念資料館、愛楽園、琉球新報社新聞博物館での研修を実施した。ライティングと文献調査を学ぶために図書館での研修を実施した。教員採用試験では、繰り返し受験指導を行い、小中高合わせて受験生5名中3名が合格した。中国人留学生の研究生応募に際して、平成30年度より受け入れるための準備を進めた。	
研究	0.20	専門領域での研究活動を積極的に遂行して、その成果を社会に公表していく。また、学部附属小中学校での国語科共同研究者としての業務を遂行して、附属学校での研究活動の発展に資する。さらに、科学研究費補助金、その他研究助成に積極的に応募し、研究活動を発展させる準備を行う。	0.30	4月に早稲田大学国語教育学会で「児童文学を学ぶ授業づくりの課題」をテーマに講演した。5月に日本近代文学会春期大会「特集 一〇一年目の漱石—なぜ読まれてきたのか 第一企画(パネル) (文化)としての漱石—作家像・教科書・文学館・サブカルチャー」で「国語」教育と「国民」作家漱石」をテーマにパネラーとして依頼発表をした。また、日本児童文学者協会沖縄支部主催の2017学習会「子どもの本で平和を描く」にシンポジストとして参加して「平和をつくる意思で描かれた子どもの文学」をテーマに発表した。9月に西日本国語国文学会のシンポジウム「学生を育てる国語国文学の教育」で「(対話のことば)を創りだすリテラシー実践」をテーマにパネラーとして依頼発表をした。12月に国語学懇話会で「沖縄の歳時記づくり—宮古の俳句を例に—」について発表した。2018年度刊行の「ことばの授業づくりハンドブック」シリーズの『文学創作の学習指導』(漢水社、2018年3月刊)の編集を担当した。また、『赤い鳥』事典(柏書房、2018年7月刊予定)の編集委員長として刊行準備に当たった。『国語教育史研究』第18号に依頼論文「単元学習『言語としての日本語に迫る』の実践報告」を寄稿した。『国語教室』106号(大修館書店)に依頼論文「国語」教科書と夏目漱石」を寄稿した。解釈学会、全国大学国語教育学会、教育目標・評価学会、日本児童文学学会の各研究大会に参加した。9月に国際芥川龍之介学会(中国海洋大学)に参加し、分科会の司会を担当した。さらに、学部附属小中学校・小学校での共同研究者として、公開研究会(6月、11月、1月)の授業づくりに参画して指導助言を行い、研究紀要作成に助言を行った。文部科学省委託事業「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」(平成29年~30年度)のメンバーとして宮古市立下地中学校、石垣市立八島小学校、石垣第二中学校での授業研究に参加し、宮古市立上野中学校での共同研究を開始した。さらに、科学研究費補助金基盤研究(C)「沖縄における「格差と学び」をめぐる臨床教育学研究—教師教育の質的向上をめざして」(平成29年~31年度)の共同研究者としての研究活動を開始した。平成30年度科学研究費補助金基盤研究(C)に応募し、その結果待ちである。	
社会貢献	0.20	小・中・高校と連携して、教育現場での教育力の向上に資する支援活動を行う。また、学会活動として、専門学会での役員としての職務の遂行、学会の研究水準の向上と社会貢献に資する活動を行う。琉球新報社児童文学創作公募の選考委員や琉球大学附属図書館のびふりお文学賞選考委員としての職務を遂行して、地域文化の向上や図書館及び大学の広報活動に貢献する。	0.15	5月に八重瀬町立東風平中学校で「思考力・判断力・表現力の育成と言語活動の充実」をテーマに関する講演を行った。6月に中城村教育委員会連携の会議に参加して教育委員会、各校校長と交流した。その後、8月から10月にかけて、中城小学校4年の授業支援を行った。その際、琉球大学ウミガメ研究会の学生に協力を依頼して、学生による授業支援も行った。7月に那覇市教育事務所の夏期研修で講義を行った。8月に開邦高校の研修会で新学習指導要領と高校改革の動向について講話をした。11月に九州地区中学校国語教育研究会沖縄大会に指導助言者として参加した。12月に附属図書館のびふりお文学賞選考委員として第11回びふりお文学賞小説部門の選考を行い、選考評を『文学賞作品集』に掲載した。7月に琉球新報社児童文学創作公募の選考委員として選考を行い、その選考評を琉球新報に掲載した。2017年度全国学力・学習状況調査の沖縄県中学校国語の結果について分析して、沖縄タイムスに分析結果を公表、琉球新報の企画に意見を述べた。12月に公表された大学入試新テストについて、琉球新報の記事で意見表明した。9月に日本近代文学会の評議員に選出された。11月に日本児童文学学会の評議員に再選され、評議員会に参加した。	
管理運営	0.10	学部学生生活委員会としての業務を遂行する。特に、認定試験WGとして、学生の教員採用試験対策を支援する学部認定試験の準備、遂行に積極的に参画して、教員採用試験合格者数増に貢献する。また、2年次指導教員として新入生歓迎行事の成功のための支援を行う。さらに委員会委員としての業務を支援遅延なきよう着実に遂行する。	0.05	学部学生生活委員会委員、就職推進部会長、教員採用試験対策WG長として、教員採用試験対策の計画立案に参画し、年2回の教授セミナーの実施、学生による教員採用試験対策自主学習グループの学習を支援した。その結果、学部全体及び国語科の教員採用試験合格に貢献した。新たに外部講師を招いた教授学習会が組織できた。委員会委員としての業務を支援遅延なきよう着実に遂行するため努力したもののまだ十分な活動とは言い難い。また、入試問題作成委員として活動し、入試問題作成、入試監督、採点に関わった。学部投票管理委員として活動した。	
	0.00	赴任3年目を迎え、これまでの教員活動経験を活かして、上記目標を達成すべく努力する。	0.00	赴任3年目を迎え、学生院生の指導に力を注いだ。附属小中学校での共同研究、県内小中高における教育力向上支援、その他の社会貢献、専門研究なども意識的に様々な取り組みを進め、当初の目標を達成することができた。管理運営については、必要な業務は遂行したが、十分でない分野もあり、今後の課題としていきたい。また、教授職員の2017年度の庶務主任に選出され、本学全構成員の労働環境や教育環境の改善を目指す活動を重視して取り組んできた。さらに、普天間第二小学校での米軍機部品落下事故に関する教授会声明に有志提案として参加して、学部の地域からの信頼を醸成する活動にも参加した。	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高良倉成	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.25	学部共通の小免用科目である「社会科要説」、社会科教育専修用の科目である「経済学概論」や「国際経済論」および「特講」・「演習」、沖縄島嶼教育コース用の「経済時事問題演習」などに加え、今年度から新たに学校教育専攻共通科目「子どもの世界・学びの世界」も担当する。		0.25	「社会科要説」については今年度から担当を外れることになった。他の社会科教育専修、沖縄島嶼教育コース、学校教育専攻の各科目については予定どおりこなした。また、ゼミ生4人の卒論指導をした。	
研究	0.25	昨年度に発表した2つの学会誌掲載論文をふまえ、今年度から2年をかけて、産業需給バランス変化－資本主義浸潤性－経済構造変化という複合的プロセスを「定型化された事実群」と照合しながら整理する。そして今年度は第1次準備稿を仕上げ、学部紀要に投稿する。		0.25	予定どおり、第1次準備稿として「Kuznets事実の初期局面と特化度のU字型パターン－世界経済史における国民経済的保護の常態性を再考する」を仕上げ、学部紀要に投稿した。	
社会 貢献	0.00			0.00		
管理 運営	0.50	教育研究評議会、教育学部運営会議、グローバル教育支援機構会議、大学院委員会など定例の会議で職責を果たす。また教職センター設置、教育実習等履修要項の策定なども手がける。		0.50	各種会議に参加し、また教職センター設置に関わる答申書の作成や規程類の整備に携わり、さらに学部の懸案の1つであった「教職実践に関する科目の履修等取扱い要項」の策定にもこぎ着けた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		花木 宏直	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	4年次指導教員として、6人の教採受験や教員への就職支援、教育実践演習・研究の運営に努める。また、ゼミ指導学生の3～4年次6人に対しても、卒業研究がとどこおりなく進展するよう、積極的に支援する。さらに、教育実習委員として、社会科教育専修の各年次ともに実習の手続きの補助や、実習先との調整に努め、問題なく実習が進むよう支援する。			0.25	4年次6人のうち、休学していない4人について、卒業論文の作成が無事終わり、卒業できる予定となった。しかし、進路未定の者もいるため、引き続き就職支援を行う。教育実習委員についての業務も滞りなく行った。		
研究	0.30	今年度より、科研費若手研究Bの採択を受けた。これを活用し、近代における沖縄系移民の成立を、本家・長男優先といった社会的側面から再検討を進める。また、法文学部との共同研究にて、沖縄系移民とバスク人との比較研究も継続発展させる。			0.30	法文学部との共同研究による沖縄系移民とバスク人との比較研究は、11月にアルゼンチン現地調査を行い、アンケートを収集することができ、現在分析を進めている。科研の個人研究についても、沖縄県内や外交史料館の移民資料の収集と分析を進め、次年度の海外フィールドワークの準備を固めつつある。		
社会 貢献	0.25	八重瀬町史編纂委員会移民・出稼ぎ編専門部会の専門委員として、3年目に入った。事務局や八重瀬町の方々と連携し、移民の当事者への聞き取り調査や現地調査をさらに充実させ、来年ないし再来年の執筆へ向けてさらに進展させる。			0.25	八重瀬町史について、沖縄県へ帰郷した移民への聞き取り調査などに協力させていただき、来年度以降の海外フィールドワークに向けた準備を整えることができた。		
管理 運営	0.20	全学では、国際沖縄研究所運営委員として、機関の維持運営に努める。学部では、教育実習委員の介護等体験指導部会長として、後期開講の教職科目「介護等体験指導」に向けて、外部講師の依頼や車いすの貸し出しをはじめとどこおりない運営をめざす。			0.20	国際沖縄研究所運営委員として、機関の維持運営や、機関誌の査読等を行った。教育実習委員の介護等体験指導部長として、緒方先生や城間先生、沖縄リハビリテーション福祉学院の支援を得ながら、外部講師の依頼方法の改善を図った。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		田中 敦士	所 属		教育学部 特別支援教育専攻	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・学生支援	0.40	①講義「知的障害者の指導法Ⅰ」では、特別支援教育の学校現場で必要となる実践のスキルも体得できるよう、現職教員が使用するマニュアルなども含めて教授するほか、できるだけ模擬授業も取り入れて2次試験対策を意識する。また「知的障害者教育課程論」では、採用試験に向け毎週小テストを実施して意識啓発を図る。②卒業研究10名および修士論文3名とゼミ人数が多いが、学校現場に貢献できるテーマを優先させ、必要に応じて実践現場や学外専門家と連携して共同研究を行う。③国内外の学会で現職院生にも発表の機会を与え、投稿論文についても積極的な支援を行う。④教員採用試験受験予定者には2次3次対策などを希望に応じて個別に設定する。⑤県外の教員採用試験受験予定者には、大学推薦の支援のほか、昨年度までの合格者の各種資料を提供し助言を行うとともに、該当するOB等がいれば紹介する。⑥海外の日本人学校受験希望者には、卒業生で海外勤務している学生からの情報を提供する。⑦大学院修士進学希望者に対しては、将来のキャリアをイメージさせて大学院の情報や研究計画への助言を丁寧に行う。			0.40	①講義「知的障害者の指導法Ⅰ」では、現職教員が作成して研修に使用するマニュアルをテキストとして、実践的なスキルを教授したほか、現職教員による模擬授業も実施した。受講対象の2年次以外にも教授2次試験対策で参加する学生もおり大好評だった。「知的障害者教育課程論」では、教員採用試験の過去問を毎週小テストで実施して意識啓発を図った。②修士論文では現職派遣の2名の主査となり、毎週水曜日は夜10時頃まで指導にあたり、満足されて修論を書き上げた。③院生らにも学会発表と論文投稿させ、実践でも研究の重要性を認識してもらうことができた。④教員採用試験受験者には2次3次対策を希望に応じて個別に設定し、現役で3名が教員に合格した。⑤県外の教員採用試験受験者には、個別で5回以上対策の時間を設定し、大学推薦では1名が川崎市(神奈川)に合格した。⑥海外の日本人学校受験希望者はいなかった。⑦大学院修士進学希望者1名に対しては、大学院の情報や研究計画への助言を丁寧に行い、入試で合格した。		
研究	0.40	①科研費(基盤研究C;代表:H28-30)「特別支援教育支援員配置によるインクルーシブ教育推進成果評価尺度の標準化」が2年目となるので、精力的に学校現場や諸機関を訪問し、全国調査を進める。②科研費(基盤研究B;分担:H29-31)「ライフステージに応じた発達障害児における「不器用」の評価と支援法の開発」は初年度なので、最新の情報収集を精力的に行う。③知的障害者、発達障害者の教育課程や授業評価等に関する研究をすすめ、成果を学校現場に還元するほか、国内外の学会誌等への論文掲載と学会発表を目標とする。④塩野義製薬との共同研究「IN-Childの教育的診断と支援システムの構築」(研究代表者:韓昌完)は初年度となるが、沖縄県教育庁義務教育課と連携し、県内の小中学校へIN-Child Recordを普及しIN-Child教育プランを策定できるような手助けを精力的に行う。			0.40	①科研費(基盤研究C;代表:H28-30)「特別支援教育支援員配置によるインクルーシブ教育推進成果評価尺度の標準化」では、精力的に学校現場や諸機関を訪問して全国調査の準備を行った。②科研費(基盤研究B;分担:H29-31)「ライフステージに応じた発達障害児における「不器用」の評価と支援法の開発」は初年度だが、日本特殊教育学会(名古屋)で自主シンポジウムを開催し、司会者および指定討論者として参画した。③知的障害者、発達障害者の教育課程や授業評価等に関する研究をすすめ、成果は学校紀要にまとめ学校現場に還元したほか、学会誌にも掲載された。④塩野義製薬との共同研究「IN-Childの教育的診断と支援システムの構築」(研究代表者:韓昌完)は初年度となるが、市町村教育委員会とも連携し、県内の小中学校へIN-Child Recordを普及しIN-Child教育プランを策定できるような手助けを精力的に行った。宜野湾市立嘉数中学校へ毎週火曜日18:30から2時間程度ケース会議を開催し、参加教員が段々多くなり満足しているとのことだった。		
社会貢献	0.15	①アドバイザー派遣事業により、沖縄県内の公立小中学校への校内研修や指導助言など積極的に行う。②県外から訪沖する知的障害のある修学旅行生への大学公開講座を開催し、知的障害者も大学で学べる機会を提供する。③国際学会「3rd Asian Research Conference for Human Services Innovation」を実行委員長として琉球大学へ誘致し、最新の研究動向を学べる機会を院生や学生らに広く提供する。④教育委員会、教員、福祉・労働機関の専門家や事業主らからの相談に積極的に対応する。⑤附属小中学校や公立中学校からの求めに応じ、ケース会議での助言などを精力的に行う。			0.15	①前出の嘉数中学校をはじめ沖縄県内の公立小中学校への指導助言など積極的に行った。②東京から訪沖する知的障害のある修学旅行生への大学公開講座を開催し、65名が参加した。③国際学会「3rd Asian Research Conference for Human Services Innovation」を実行委員長として後援財団の助成を受けて誘致し、院生や学生らに発表の機会を提供した。④教育委員会、教員、福祉・労働機関の専門家や事業主らからの相談に積極的に対応した。⑤附属小中学校や公立中学校からの求めに応じ、ケース会議での助言などを精力的に行った。		
管理運営	0.05	①特別支援教育の人材養成の在り方について、文科省や教大協、他大学の情報を収集し、次の改革に向けたニーズを継続的に情報収集する。②教育委員会、投票管理委員会などの委員会活動に努める。③教職実践演習や特別支援学校教育実習等での学生指導を担当する。④推薦入試の導入3年目にあたり、入試改革に中心的に取り組む。⑤日本教育大学協会全国特別支援教育部門との窓口として調整する。			0.05	①特別支援教育の人材養成の在り方について、国や教大協、他大学の情報を収集し、ダイバーシティを軸とした大学院の構想案を韓教授らと作成して学長に提言した。②教務委員会、投票管理委員会などの委員会活動に努める。琉球新報と本学との協定に基づく「新聞活用実践講座」の運用担当者としてサポートした。③教職実践演習や特別支援学校教育実習等での学生指導を担当した。④推薦入試の導入3年目にあたり、面接の改革に取り組んだ。⑤日本教育大学協会全国特別支援教育部門との窓口として情報収集した最新動向を学科等に提供した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	韓 昌完		所 属	教育学部 特別支援教育専修	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.15	①特別支援教育の心理・生理・病理概説は適切なテキストが市販されていないため、テキストを作成し独自の学習資料を提供する ②特別支援教育概説に関しても独自の教材を作成し、教授する。 ③修士課程の指導において、学術雑誌および紀要に研究論文を投稿掲載するように指導を行う。 ④教員採用試験に対する取り組みを積極的に実施する。	0.15	①特別支援教育の心理・生理・病理概説は適切なテキストが市販されていないため、テキストを作成し独自の学習資料を提供した。 ②特別支援教育概説に関しても独自の教材を作成し提供した。 ③修士課程学生2名に対する研究指導の結果、全国学術雑誌2本、紀要に1本の研究論文を投稿し掲載された。 ④修士論文指導の結果、国際学会で2本の研究発表を行った(韓国プサン、2017年9月) ⑤教員採用試験に対する取り組みを積極的に実施し、ゼミ生3名中3名の現役合格の成果を出すことができた(沖縄特支2名、川崎の小学校1名)、大学院生1名も合格した(沖縄特支) ⑥韓国の釜山で開催された国際学会に修士課程の学生1名、学部の学生1名を引率し参加して計2本の論文発表を行った。 ⑦企業との共同研究を実施し、週2回、特別支援教育専修に在籍している24名の学生を含む、大学院生1名、大学教員3名、計28名で個々のIN-Childに対するケーススタディと支援プログラムの作成を行った(附属小学校木曜日、嘉数中学校火曜日) →年度目標の180%以上の達成。		
研究	0.50	①国際ジャーナルに論文1本以上掲載。 ②国内ジャーナル(紀要を含む)に論文1本以上掲載。 ③外部資金(科学研究費補助金、共同研究基金等)の獲得にChallengeする。 ④国際学会に1本、国内学会に1本研究発表を行う。	0.50	①国際ジャーナルに論文3本を掲載した(Impact factor 1.278)。 ②国内ジャーナル(紀要を含む)に論文4本を掲載した。 ③外部資金の獲得にChallengeし、企業との共同研究が決まり、初年度の900万円の研究費を実行した。 ④国際学会でも講演1回、研究発表3本、国内学会に2本の研究発表を行った。 →年度目標の300%程度の達成。		
社会 貢献	0.20	①県からの研修講師等をできる限り引き受ける。 ②附属小学校に対する教育支援を積極的に行う。 ③地域の小・中学校に対する支援を積極的に行う。 ④Advisory Staff派遣事業に積極的に参加する。	0.20	①国際交流に関しては、韓国の培材大、Pai Chai Universityとの部局間協定の採決の仲介役を務めた。 ②富山市で行った包括的教育を必要とする子の教育的診断と支援に関する勉強会の講師を務めた。 ③平成29年度沖縄県教育委員会免許法認定講習の講師を務めた。 ④沖縄県の教師、保護者、支援員などを対象に包括的教育を必要とする子の教育的診断と支援に関する地域向けの研修会を企画、実施して講師を務めた。 ⑤附属小学校でのアドバイザー、カウンセラーとして活動し、附属小学校の入試、毎週のケース会議に積極的に参加した。 ⑥山口県下関市で行った包括的教育を必要とする子の教育的診断と支援に関する研修会の講師を務めた。 ⑦Advisory Staff派遣事業に参加し講義を行った。 ⑧地域の中学校のアドバイザーとして活動し、毎週のケース会議を主導した。 →年度目標の200%程度の達成。		
管理 運営	0.15	①専修主任を担当する。 ②教務委員(大学院主任)を担当する。 ③発達支援教育実践センター運営委員会の委員を担当する。 ④全学障がい学生支援室の運営委員を担当する。	0.15	①専修主任を担当した(4年4回目)。 ②発達支援教育実践センター運営委員会の委員を担当した。 ③教育学部附属小学校の講師(カウンセラー)を務めた。 ④代議員会、教務委員会の委員を務めた。 ⑤全学の障がい学生支援室の運営委員を担当した。 ⑥教育学研究科専攻主任を担当した。 ⑦学部の学生生活委員会の委員を担当した。 →年度目標の150%程度の達成。		
計	1.00		1.00			

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	小原 愛子		所 属	教育学部 特別支援教育専攻特別支援教育専修	
職 名	講師		業 務 ウエイト比 (予定)	業 務 ウエイト比 (実績)	平 成 2 9 年 度 年 度 末 自 己 点 検 結 果
領域	0.50	<p>【学部】</p> <p>1.病弱者教育、病弱者の心理・生理・病理、重度・重複障害者教育は適切なテキストが市販されていないため、テキストを作成し独自の学習資料を提供する</p> <p>2.知的障害者の心理、心理検査法に関しても独自の教材を作成し学習資料を提供する</p> <p>3.年次指導教員として学生指導を行う。</p> <p>【大学院】</p> <p>1.大学院生の授業において、研究方法に関するテキストを作成し独自の資料を提供する。</p> <p>2.指導教員として、研究指導を行う。</p>	0.20	<p>【学部】</p> <p>①病弱者教育、病弱者の心理・生理・病理、重度・重複障害者教育は適切なテキストが市販されていないため、テキストを作成し独自の学習資料を作成して提供した。授業評価アンケートは、総合平均5.0だった。</p> <p>②知的障害者の心理、心理検査法に関しても独自の教材を作成し学習資料を提供する。授業評価アンケートは総合平均5.0だった。</p> <p>③学部生の研究指導では、論文指導の成果として、国際学会で2題の発表が決定している。</p> <p>④教員採用試験に対する取り組みを積極的に実施し、ゼミ生2名中1名の現役合格の成果を出すことができた(法務省法務教官)</p> <p>⑤企業との共同研究を実施し、週2回、特別支援教育専修に在籍している24名の学生を含む、大学院生1名、大学教員3名、計28名で個々のIN-Childに対するケーススタディと支援プログラムの作成を行った(附属小学校木曜日、嘉数中学校火曜日)</p> <p>【大学院生】</p> <p>①大学院生の授業において、研究方法に関するテキストを作成し独自の資料を作成して提供した。</p> <p>②大学院生の研究指導の成果として、国際雑誌に1本の論文掲載、国際学会で1題発表し、1題の発表が決定している。</p>	
研究	0.30	<p>1.国内ジャーナル(紀要を含む)に論文1本以上掲載。</p> <p>2.国際ジャーナルに論文1本以上掲載。</p> <p>3.国内学会または国際学会で1題以上発表する。</p> <p>4.外部資金(科学研究費補助金等)の獲得に挑戦する。</p>	0.50	<p>①国内ジャーナル(紀要を含む)に3本掲載された。</p> <p>②国際ジャーナルに2本掲載された。</p> <p>③国内学会で1題、国際学会で1題発表した。</p> <p>④科研費の若手研究Bに応募・挑戦した。</p> <p>⑤企業との共同研究が決まり、共同研究者(推進メンバー)として、初年度の900万円の研究費を獲得した。</p>	
社会貢献	0.10	<p>1.附属小学校に対する教育支援を積極的に行う。</p> <p>2.特別支援学校に対する教育支援を積極的に行う。</p>	0.15	<p>①附属小学校に対する教育支援は、附属小学校のカウンセラーとして、週1回のケース会議の企画・運営や教員に対する相談・アドバイス等を行った。</p> <p>②大平特別支援学校の評議委員として学校の運営や研究に関するアドバイス等を行った。</p> <p>③嘉数中学校に対する教育支援として、週1回のケース会議の企画や運営、教員に対する相談・アドバイス等を行った。</p> <p>④沖縄県の教師、保護者、支援員などを対象に包括的教育を必要とする子の教育的診断と支援に関する地域向けの研修会を企画、実施して講師を務めた。</p> <p>⑤下関市、富山市で行った包括的教育を必要とする子の教育的診断と支援に関する勉強会の講師を務めた。</p> <p>⑥国際交流に関しては、韓国の培材大(University of Paichai)との部局間協定の採決に関して協力した。</p>	
管理運営	0.10	1.委員会委員を担当する	0.15	<p>①入試委員を担当した。</p> <p>②実習員として特別支援教育部会長を担当した。</p>	
計	1.00		1.00		

*当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小田切 忠人	所 属	教育学部 教育実践学専修	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.35	学部では、新旧のカリキュラムに対応して、講義を分担する。大学院では、これまで通りの講義を分担する。		0.35	計画通りに、新旧のカリキュラムの科目を担当講義した。	
研究	0.20	科研費研究二年目である。計画に沿って進める。		0.15	教育現場の教材開発ニーズに係る調査を十分に行うことができなかった。次年度、より多くのエフォートをかけて対応する計画である。	
社会 貢献	0.05	現場教師と研究会や本学部の事業などを通じて交流し、教育現場に貢献する。		0.05	現場教師との研究会はほぼ毎月続けた。また、現場教師が参加する数学教育協議会第65回全国研究大会で記念講演を行った。	
管理 運営	0.40	改組課題(特別専攻科の廃止・特別課程の設置に目途をつける。大学院の大くり化・教職大学院一元化の作業を進める。課程認定の準備を進める。)を踏まえつつ、学部運営に当たる。		0.45	改組課題(特別専攻科の廃止・特別課程の設置に目途を付けることができた。大学院の大くり化と教職大学院一元化の作業を進め、H31.4の教職大学院の機能強化(特別支援教育)のための準備をほぼ終えることができた。学部運営については、一部組織改編もあり、後手に回ったところも多々あるが、学部運営会議のメンバーに支えられて進めた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	日熊 隆則		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻		職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・授業: 数理の構造において、アクティブラーニングの一環としてグループ学習を取り入れる。また、数理の構造ではiPadやパソコン、DVDを利用した、ビジュアルな授業をやる。 ・プロジェクトSEED: プログラミング教育をいろんな教科の先生と共同で作り上げ、その成果を付属小学校などで、対外的なワークショップを行うところまで持っていく。 		0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・授業: 数理の構造の授業において、昨年度は固定式の机でグループ学習がうまく機能しなかったが、今回は移動式の教室に変えてもらい、グループでの学習が機能した。中間テストをグループの平均点にするなどの工夫はグループの結束に役だったようで、文科系の学生であるにもかかわらず、とても集中して楽しそうに数学をやっているのが印象的でした。70点。 ・SEED: 今年は、自分自身のトレーニングのため、お休みしたが、来年にその成果を生かしたい。30点。 		
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の学習をゲーム化するためのシステムを、Web上に構築し、美東中学校の土曜塾で本格的に始動する。 ・昨年度の反省をもとに、生徒たちのさらなる成績向上のための方法を確立し、実際に平均を30点アップさせることを目標とする。 		0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・今回RPGタイプのゲームを宮田研究室の学生と一緒に構築した。ただ、生徒たちのゲームをやろうというモチベーションが今一つ上がらず、参加度が少なかったのが残念である。50点。 ・今年は、土曜塾においてルールを最初に明確にした。これは効果的で、生徒も学生も共通の理解ができて運営がやりやすかった。ただ、だんだんと緩くなっていくのが問題点として出てきた。心を開かない生徒がそのうち良く話すようになって、成績も30点以上アップした。ほとんどの生徒が継続することができないタイプで欠席が増えていく。来年はこの部分を改善する予定。70点 		
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・付属小でのプログラミングの親子ワークショップ ・銘苅小でのパソコンクラブの授業 ・美東中学での土曜塾で、中学生に学習支援 ・那覇市教育研究所と教師のためのプログラミング教育プロジェクトを予定 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに付属小でプログラミングの親子ワークショップ ・付属小で技術の岡本先生と共同でパソコンクラブの授業 ・銘苅小でのパソコンクラブの授業 ・美浜小でのパソコンクラブの授業 ・那覇市教育研究所と技術の岡本先生と共同で、教師のためのプログラミング教育のための講演会を実施 		
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 学生生活委員、釧路校交換留学制度WG、教員免許状更新講習 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・釧路校交換留学WGにおいて、釧路校の委員との合同会議を実施 ・教員免許状更新講習「プログラミングは算数的活動である」を実施 		
計	1.00			1.00			

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		山城 康一	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻
職 名				准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.40	専門科目:数学入門で反転授業、代数学特論、幾何学 I でAL 学部ゼミ4年生2人、院生1人のそれぞれの分野への意欲の持続 webclassの利用		0.35	数学入門ではオリジナルテキストの事前学習、解説動画の視聴による反転 授業を行う。学生が自ら学習する習慣が付き、目的は概ね達せられた。院 の代数学特論では、テキストを事前に学習することを義務づけ、授業では ポイントの解説だけを行う。これまで果たせなかった、「ガロア理論」の講義 に成功。 主に共通教育科目の「統計学」においてWebclassを利用。学生の質問に web上で回答する。
研究	0.20	反転授業、コックさん学校の報告 部分環の列に関する研究の継続 平田分離拡大環の諸結果の強分離拡大環への拡張 ある種の圏論的システムの構築		0.05	反転授業、小学校における確率授業の試み、数量感覚を養う授業などの 事例を集めるが、発表には至らない。 環、圏に関する研究には、進展はなかった。
社会 貢献	0.10	日本数学教育研究沖縄大会で高専大学部会世話役に対する取り組 み		0.10	全国算数・数学教育研究(沖縄)大会準備委員会役員 島尻教育研究所教育研究員(中学校教員)の指導講師
管理 運営	0.30	コックさん学校 専修主任		0.50	数学専修主任 教職体験 I 部会長
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		湯澤 秀文	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻
職 名				准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.35	各講義に対する学生の質問や感想を随時取り入れ、これを授業の改善等を通じてフィードバックして行く。近年の情報や研究成果も適宜紹介する等活用し、講義の質の向上に努める。 また、ゼミや指導年次の学生に対し、進路相談、修学相談等を随時行う。		0.40	ほぼ毎回の講義において、学生からの質問や感想を、主に記述を通して聞くことができ、結果をそれ以降の講義の改善に役立てることができた。また、近年の研究の動向等も適宜活用した。その結果、これらに関する学生の感想記述は、概ね講義の趣旨に沿うものが多かった。 また、ゼミや指導年次の学生に対し、進路相談、修学相談等を随時行った。
研究	0.35	研究テーマに関する資料・情報の収集、教材開発、授業研究、授業実践、学会参加等を通じて、算数・数学科教育及び教師教育に関する研究と実践を進める。		0.35	研究テーマに関する資料や情報の収集、学会への参加等を通して、実践や考察を進めることができた。
社会 貢献	0.20	学会や、附属学校・公立学校の研究大会、研修、授業研究会等における指導・助言等の要請に可能な限り応え、学校や大会の運営に協力する。		0.20	附属学校における研究大会や校内研修、教育実習等での指導・助言のほか、公立学校や各種研究団体等からの研究会・研修会等についても可能な限り依頼を受け入れ、指導・助言等を行った。
管理 運営	0.10	所属委員会の活動に取り組む。		0.05	所属委員会より依頼された業務に関しては責務を果たすことができた。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		永津 禎三	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	昨年度に引き続き授業改善に取り組み、その教育効果を検証する。特に小学校教科科目「小専美術A」は、「彫り進みリレー版画」を中心に制作や演習を主とする授業に大幅に変更して3年になる、一昨年度からはグループ学習を取り入れ、学習指導要領の内容を踏まえて「教材としての評価」をレポートさせ、昨年度からは導入に「対話による意味生成的な美術鑑賞」を取り入れたことで、学生は問題意識を持ち意欲的に学ぶようになって来ている。更に、楽しく興味を持ち、深い考察に繋がる授業方法を模索する。			0.30	「小専美術A」の授業では昨年度と同様のカリキュラムで授業を実施した。学生の学びの深化は期末レポートにもよく反映し、前学期の授業受講者では、ほぼ全員のレポートが「A」レベルであった。来年度からは、改組前入学学生の履修年次が終了するため、受講者数は少人数となる見込みであるが、その利点を活かしたきめ細やかな授業を実施し、更に深い考察に繋がる授業方法を模索したい。 また、絵画演習の授業では、美術科教育法Cと連動して座間味島でのアートワークに参加し、学生の卒業研究に繋がる課題発見のサポートが出来た。		
研究	0.50	一昨年度からまとめ始めた美術理論・美術史分野の論文の続編である、「近代西欧文化圏外の視覚表象の構造」及び「彫刻の変容」をテーマとした論文を学部紀要等に発表する。「彫り進みリレー版画」については、より多くの実践例と制作レポートを基に考察を深め、web上に論文としてまとめる作業を始める。			0.50	今年度も小専美術の授業での実践を通して、版画教育についてより考察を深めることが出来た。蓄積したデータを基に来年度自身のHP上で論文を発表し、現場の教諭の授業づくりに貢献したい。 美術理論・美術史分野の論文については、教育学部紀要第91集に「近代西欧文化圏外の視覚表象の構造」を、第92集に「彫刻の変容」を発表した。		
社会 貢献	0.10	要請があれば、Advisory Staff 派遣事業や、美術館等の講演、ワークショップ等に協力する。			0.10	沖縄県立博物館・美術館の「安次富長昭展」関連事業として、ワークショップ実施を依頼され、彫り進みリレー版画のワークショップ「版画で話そう！」を6月3日に実施した。美術教育専修3年次学生4名をアシスタントに任用し、教育と研究に関わる多くの知見を得ることができた。		
管理 運営	0.10	教室主任および専修主任、図書紀要委員としての職務を遂行する。			0.10	教室主任、専修主任および図書紀要委員(前学期のみ)としての職務を遂行した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		スプリー テイトウス	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 海外研修のため平成29年度前期中教育や学生支援を多少減少する。 海外研修と関連で琉球大学の学生の国際交流を実施する。 共通教育科目「美術の世界」の授業改善を行う。 「デザイン基礎」、「デザイン/II/III /演習」、「スタートアップ美術」、「図法および製図」、「デザイン特論」という授業改善。 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> 前後期ともに、登録者のいない授業を除きに、予定通り授業を実施し(一部は集中講義)、前年より受講生との積極的な関わりができた。 共通教育科目「美術の世界」の授業を改善し、受講生のより積極的な関わりが実施できた。 デザイン/II/III /演習の授業で琉球大学の学生とドイツ関連の国際交流プロジェクトを実施できた。 認定試験問題のデザイン分野の作成を担当した。 	
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> 29年6月から8月まで主にドイツでアートとまちづくりに関する海外研修を行う。 都市再生と住環境についての研究 オルタナティブ教育についての研究 美術教育の中でマルチメディアやコンピューターによるの表現の可能性の実践研究。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> 29年6月から9月まで主にドイツでアートとまちづくりに関する海外研修を実施できた。都市再生と住環境についての研究を深められた。 29年6月 「Kulturfabrik auf der AEG」での講演。ドイツ、ニュルブルク 29年6月～8月 「Die Menschliche Dimension」というアートとまちをテーマした展示会を企画し、実施できた。ドイツ、ベルリン 29年7月 「Soft City」という国際フォーラムと展示会の企画を実施できた。 29年8月～9月 「Moving Micro Office」というアートによるまちづくり研究プロジェクトを実施できた。ドイツ、ベルリン 29年9月 「Cultural Typhoon - Beware, Utopia!」という国際会議の参加/ドイツ 30年2月 「長屋シンポジウムvol.2「長屋とアート」」で講演。東京 	
社会 貢献	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 日本とドイツの国際交流活動を行う。 おきなわオルタナティブスクールというNPO団体の支援やボランティア活動。 不登校児のサポート含むオルタナティブ教育の実践活動。 子ども自然体験キャンプ、子どもの表現活動の支援などのボランティア活動。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> 国際展示会また国際フォーラムを企画し、日本とドイツの様々な国際交流活動を行った。 おきなわオルタナティブスクールというNPO団体の支援やボランティアを行った。 不登校児のサポート含むオルタナティブ教育の実践を行った。 子ども自然体験キャンプ、子どもの表現活動の支援などのボランティアを行った。 	
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流委員会委員(全学委員会)としての業務を行う。 教育実習委員会の学部内委員会活動を担当する。 入試に関する業務を行う。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> 海外から可能な程度で管理運営の流れをフォローした。 入試に関する業務を行った。 	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	仲間 伸恵		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	授業改善に取り組む。特に「小専美術」については、今年度担当体制が変更されたことを機に、前年度からねらいとしている「素材と手作業の創造性」についてさらに解り易く学生に伝わるよう工夫を加え、そこから図画工作の工作分野に対する関心と理解を深められる授業の構築に務める。		0.40	各授業内容の改善に取り組んだ。 ・「小専美術」では、身近にある様々な紙素材と紙縫り(こより)というシンプルな手技を題材に、「素材と手を通して、世界を感じ・想像し・考え・創造する」授業の構築に務めた。鳥がつくる不思議な造形や古い民具・現代アートなど幅広い映像資料、実際の作例などによって実感をもって学生に伝わる工夫を行い、手応えを得ることが出来た。 ・「織染Ⅱ・織染A」では、個々の興味関心適正に対応して制作課題の自由度を広げ、自主性を増す工夫をしたことで、学生の意欲を高めることが出来た。 ・その他、展覧会見学、学校現場や地域での研究活動への参加等、学生へ学びの機会を提供するよう努めた。	
研究	0.40	「紙漉きを通して自然と文化を学ぶ体験学習」について、引き続き大宜味村と宮古島市における実践と研究を深める。 「宮古地域の苧麻手績糸の現状」について論文にまとめる。		0.40	・「紙漉きを通して自然と文化を学ぶ体験学習」について、引き続き大宜味村(大宜味小)と宮古島市(福嶺小、池間小中)における実践と研究を進めている。4年目となる宮古島市福嶺小での苧麻紙体験学習は、宮古苧麻績み保存会の方々と児童との交流によって地域の伝統文化を身近に感じる体験学習となり、紙漉き工程を通じて自然の面白さや人の知恵を体感する総合的な学習として充実度を増してきたと思う。 ・手仕事への回帰をテーマとした「2017アジアファイバーアート展・福岡」へ参加し作品を出品した。 ・宮古島マンゴー丸ごと日本一プロジェクトの一環として(株)ビザライからの委託により「マンゴー織染開発研究」の受託研究を行った。この研究の成果は今後、ビザライが運営している就労継続支援事業所・夢工房宮古において障がい者等の手仕事となることを目指している。 ・織物歴史研究会に参加し、琉球王府時代の文書「宮古島御用布座公事帳」を中心に研究を行った	
社会 貢献	0.10	要請に応じて、地域のものづくり活動に協力する。		0.10	・大宜味村教育委員会生涯学習講座(シークワサー染めと紙漉き)の講師を務めた。 ・沖縄県工芸振興センター高度工芸技術者養成研修特別講習の講師を務めた。 ・宮古島市総合博物館協議会副会長を務めた。	
管理 運営	0.10	学部教育委員、委員会委員の職務を遂行する。		0.10	学部教務委員、委員会委員として職務を遂行した	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		増澤 拓也	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	積極的に演習を取り入れた授業計画の実現 学生が学習利用できる心理実験プログラムの開発 学生から授業改善のための意見の聴取			0.35	実験演習を取り入れた授業を実施し、院生の投稿用データ収集のサポート。 processingとWiiバランスボードを用いたCOPデータ算出プログラムを院生 実験用に修正し、統計環境も整備。 授業終了後、授業に対する意見聴取の時間を個別に実施。		
研究	0.35	研究雑誌に1編以上投稿する。 競争的研究資金を2件以上応募する。 学会(研究会)発表を2回以上おこなう。			0.30	研究雑誌に2編投稿中。 競争的研究資金に2件応募。 学会(研究会)で2回発表。 学術雑誌の連載執筆。		
社会 貢献	0.20	運動学習研究会への参加。 バランス勉強会への参加。 沖縄県マウンテンバイク大会の運営補助。 沖縄県クライミング国体代表への指導。			0.10	バランス勉強会への参加。 沖縄県マウンテンバイク大会の運営補助。 マウンテンバイクスクールの開催・指導。 沖縄県クライミング国体代表への指導。		
管理 運営	0.10	保健体育専修主任業務。			0.25	保健体育専修主任業務に従事。 昇任人事に関する業務に従事。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		柄木 良友	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.60	担当授業を行う。卒研究生の指導を行う。 3年生の指導教員としての職務を行う。 実習委員としての職務を行う。		0.60	担当授業を行た。卒研究生の指導を行つた。 3年生の指導教員としての職務を行つた。 実習委員としての職務を行つた。			
研究	0.30	東京大学物性研究所との共同研究を行う。		0.30	東京大学物性研との共同研究を行つた。 成果はScience Advance に投稿 (vol 8, 28 Feb 2018に出版予定)			
社会 貢献	0.00			0.00				
管理 運営	0.10	研究基盤センター 保安統括者代理としての職務を行う。		0.10	研究基盤センター 保安統括者代理としての職務を行う。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岩切 宏友	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.45	<p>○新しい学習指導要領を踏まえ、アクティブラーニングを重視した物理学および自然科学系の講義を実践し、受講学生の教員としての実践力を育成に寄与する。</p> <p>○物理学実験の講義を通して、基礎的な物理の実験手法の確立や、コンピュータの活用方法、論理的な文章の書き方などを指導する。</p> <p>○修士論文作成および卒業研究の指導により、自発的研究能力や科学的思考能力の育成を行う。</p>			0.45	<p>物理学に関する講義については十分な学習効果が得られた。なお講義の内容については学部改組による学生の状況変化を反映させ、さらにアクティブラーニング活動を強化するなどして、昨年度から30%程度変化させた。また3人の学部学生並びに1名の修士課程在籍者に対して卒業論文および修士論文に関する指導を行い、科学的思考力や文章作成、プレゼンテーション技術の育成に成果があった。</p>		
研究	0.35	<p>○未来のクリーンエネルギーである核融合炉に関する基礎研究を進展させ、学会および学術論文として発表する。</p> <p>○科研費基盤研究「中高理科教育にプラズマは導入できるのか？その有用性を見極める実践的研究」を進展させ、理科教育研究に関する新規的な知見を蓄積させる。</p>			0.35	<p>核融合炉に関する基礎研究については、主にコンピュータシミュレーションを中心とした成果が得られ、2月の研究集会で成果を発表する予定である。また、科研費に関する研究(プラズマに関する教育)についても一定の成果があり、本年中に発表予定である。また、琉大付属中理科の共同研究者として協調学習に関する附属中教諭との共同研究に従事しており、紀要論文が発表される予定である。</p>		
社会 貢献	0.05	<p>○京都大学大学院 エネルギー科学研究科の博士後期課程の学生に対する研究指導を行う。</p> <p>○公立学校等で、物理学に関する講演・出前授業などを行う。</p>			0.05	<p>本大学院卒業生である京都大学大学院・博士課程所属の学生に対する研究指導を行い、一定の成果が得られた。また、科学作品展の審査委員に従事した。附属中学校では物理学に関する特別講義を実施できたが、公立学校等では実施できなかった。</p>		
管理 運営	0.15	<p>○理科教育専修・および自然環境科学教育コースの主任としての業務を円滑に遂行する。</p> <p>○理科教育専修2年次の指導教員としての業務を円滑に遂行する。</p> <p>○投票管理委員会における委員長としての業務を円滑に遂行する。</p>			0.15	<p>理科教育専修・および自然環境科学教育コースの主任としての業務は今のところ円滑に遂行できたと考えている。また、理科教育専修2年次の指導教員および投票管理委員会における委員長としての業務についても今のところは円滑に遂行できている。</p>		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		濱田 栄作	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	担当科目について、学生の到達度を高める授業の工夫や教材の開発を実施する。また、年次指導教員として、学生生活および学習・進路等の相談および助言を実施する。		0.40	担当科目について、学生の理解度および満足度を高める授業の工夫や教材開発を行うとともに、アクティブラーニングを意識した授業を取り入れた。また、附属小学校の共同研究者として、授業づくりの支援を行った。年次指導教員として、学生生活および進路等の相談および助言を実施した。	
研究	0.40	採択中の科学研究費補助金(分担1件)に関する研究を遂行するとともに、新たな科学研究費補助金や各種助成金を獲得するために、これまでの研究成果をもとに、新しい研究課題を創出する。		0.45	科研費研究の一環として、離島におけるエネルギー教育に関する教材開発及び授業実践を行った。また、高レベル放射性廃棄物の処分問題について、県内の中学校教員と連携し、授業化した。新たな研究課題として、島しょ地域に深刻な影響をもたらす可能性があるマイクロプラスチックの教材化に向けた研究に着手した。	
社会貢献	0.10	アドバイザースタッフ派遣事業による学校支援や、地域の各種団体からの要望に応える。		0.05	沖縄県児童・生徒科学賞作品展(物理分野)、および沖縄青少年科学作品展(アメリカンスクール)の審査委員を務めた。また、沖縄エネルギー教育地域会議(経済産業省資源エネルギー庁)の委員として、県内のエネルギー教育の推進に努めた。	
管理運営	0.10	教務委員として、大学教育の改善に取り組む。		0.10	教務委員に加え、教職センターを併任し、教職課程の再課程認に伴う教科のカリキュラム編成に取り組んだ。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	服部 洋一	所属	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職名	教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	①コメント・カードや受講ノート等によって学生からの積極的な意見聴取に努め、学生より得られた感想・意見を考慮し授業の改善(設備の充実も含めて)に努める。②オフィス・アワーに関しては学生からの要望がある時にその都度こまめに設定し、学習相談に大いに役立てることとする。③自己の専門分野における研究もしくは学際的分野における経験によって得られた事柄を実際の授業においても積極的に取り入れる。④担当する大学院生がいる場合には積極的にTAとして用い、もしくは外部専門家を非常勤としてTTとして登用し、意見交換・協働作業・助言をとおして、互いの教育能力の資質向上に努める。⑤FD授業開催や、FD授業への参加などを年度内最低1回の達成。⑥バイリンガル授業(前期2コマ)や、公開授業を継続し、実技面で困難に感じていることはないかを常にチェックし、彼らの練習楽器(ギター)と練習場所を好意的に確保する。⑦自己の所属する専修の学生への教育指導ばかりでなく、心理臨床科学コースの協力教員として学生の教育、フィールド実習指導、論文指導に協力する。		0.30	①左記の通り実施。特に学生からの要望の高い音楽棟内の学生控え室(学科室)の拡充計画は申請が通り、大きな改善がなされた。(音楽棟105室として稼働中)②学生からの要望に従いオフィスアワーを設定し、今年度も数名の学生からの相談を受けた。③積極的に取り入れた。④後期において学部共通科目「子ども文化とコミュニケーション」においては、外部講師をTTとして起用し、(昨年度よりも1名増員。但しすべて委託非常勤として雇用了。)その授業コンセプトと成果についての論文をセンター紀要にシリーズとして寄稿し続けている。(平成30年度4月に入稿予定)⑤西原町との地域包括連携プログラムの音楽教育編として、昨年度は学生とともにワークショップを開催したが、平成29年度は、「音楽」の授業において呼吸法発声法特別講座を設け、講師を担当。この科目担当の他の音楽科教員4名にもFDとして参加してもらった。また、例年同様、実技教員(声楽、ピアノ、器楽担当教員)の期末実技試験を教員相互で公開としFDとして役立った。⑥左記の通り行った。⑦左記の通り、外国語文献購読を前後期とも行い、副査として3名(未提出者が1名いた)で結果2名)の論文指導を行った。(本年度は音楽療法系の卒業研究はいなかった)
研究	0.50	①年度内最低1回の学会誌もしくは高等教育機関の紀要等への投稿。②年度内最低1回以上の研究発表(リサイタルまたはジョイントコンサート)を外部ホールにおいて行う。③自らの専門分野の研究(研究成果を応用する教育活動も含む)の意義を外部に対して発信し、理解を得るとともに外部資金獲得に積極的に行動する。④本学法文学部国際言語文化学科2年次の英語劇ミュージカル指導をとおして国際言語学科所属教員と共同研究(分担指導作業)をおこなう。⑤毎年行っている「琉大ミュージカル」の授業の成果発表(8月)、音楽科の成果発表としての「音楽科発表会」(3月)においてパンフレット掲載の スポンサー広告掲載費を外部資金として獲得し、それぞれの発表会の運営費に充てていく。これらのチケット収入に関しては、大学へプロジェクト寄付金として一端預け、翌年のそれぞれの運営基盤経費に充てていく。⑥附属学校との共同研究を積極的に推進する。		0.50	①学部紀要に1編、センター紀要に1編、計2編の論文を上梓した。(平成30年2月～3月刊行予定)②沖縄及び東京でソロ、デュオ、ジョイントの形式による研究発表(コンサート)を行った。③スペイン音楽曲の研究成果を基盤とする外部団体への指導を様々行った(東京都、福岡県)④平成28年度は、左記のプロジェクトを学生側から発案がなかったために立ち消えとなったが、本年度からはこれが復活し、3月の公演を目指して現在取り組んでいるところである。⑤左記の活動を行った。琉大ミュージカルに関しては、ここ数年間、繰越金が捻出できない状態が続いていたが、平成30年度において、黒字を出し、なんとか大学への寄付金を少しでもできるように主導型学生たちと計画を練っている。音楽科発表会に関しては、学生主体の自主活動であるので、演奏の指導と演奏会への集客を高めるための宣伝活動に力を入れた。(平成29年度からは2月中旬に発表会を開催することに学科内事暦を変更した。)⑥附属小学校には、従来に引き続き、合唱祭のための各クラス担任への指揮指導講習会を開き、附属中音楽科教員との共同研究を進めた。
社会貢献	0.10	①コンクールの審査等を通して、学外の音楽文化振興団体の主催する審議会に参画する。②専門分野における資料収集のため学外(海外を含む)への研究調査を積極的に行う。③小・中・高等学校からの依頼に応じて、専門分野の技術・理念を分かち合うワークショップ・講演会等を行う。④地域(海外を含む)における生涯学習の音楽活動に対し歌唱法・演奏法指導にも携わる。⑤国際貢献に関しては④に準ずる。⑥地域貢献に関しては③に準ずる。⑦協力所属専修(心理臨床科学)に関わるテーマに関して学外者・産業界関係者等より依頼があれば、カウンセリング等を行う。⑧本務に圧迫を与えない限りにおいて、兼任先(東京藝術大学、東京音楽大学大学院、等)における教育活動を積極的に支援し、研究発表活動などの企画も行う。また他の教育機関からの指導要請にも時間の許す限り対応する。⑨二期会、東京室内歌劇場などプロフェッショナル・オペラ・プロデュース団体に所属する歌手たちの指導、音楽会の監修を行う。		0.10	①第2回スペイン国際音楽コンクール声楽部門の審査を行った。②台湾における青年の合唱活動、器楽(ピアノ、フルート、バイオリン教育)の実態調査に、時間の許す限り台湾に訪問し、研究調査を積極的に行った。③前述のように、附属小学校には、合唱祭のための各クラス担任への指揮指導講習会を開いた。西原南小学校において、同校音楽科教員に依頼されて児童のための「呼吸のしかた、声の出し方、合唱で大切なこと」についてのワークショップを開いた。(同校体育館にて)。また現在、中城南小学校低学年に対する「楽しく学ぶ音楽」の授業実践を、本学音楽科2～3年次ともに行う計画である。(平成30年3月中を予定)④台湾のSGI青年部太平洋合唱団や台湾鈴木協会ピアノ科、フルート科、バイオリン科の生徒に音楽指導を行い、台湾鈴木青年オーケストラにもアンサンブル指導を行った。⑤国際貢献に関しては④に準ずる。⑥前述のように、西原町及び中城村との地域連携教育プログラムの音楽教育編をプロジェクトし取り組んでいる。(西原町とは、西原南小学校にて、教職実践研究及び教職実践演習の授業フィールドとして、訪問実地調査活動・授業実践活動を行った。⑦守秘義務により内容は伏せるが、要望があった際にはこれに対応した。⑧左記の2校において実技指導を行い、12月(東京音大大学院)、2月(東京藝大)に各々のスペイン歌曲研究発表会を行った。⑨二期会においてコーチングと音楽会の監修指導を行ない、それぞれの成果が年間2度にわたり演奏会として公開された。東京室内歌劇場は、服部の指導の下に平成29年5月に音楽会を開催した。
管理運営	0.07	①全学的委員会及び学部内の委員(教務委員)としての活動などを、責任を持って役割を遂行する。可能な限り会議に出席し、内容を所属専修に伝達報告し、協議事項を学科会議に提出し、回答を委員会へ持ち帰るよう責務を遂行する。②大学院教員組織(音楽教育専修)上の務め(今年度は前年度に引き続き専修主任)を果たし、オープンキャンパスでの対応等を始め専修主任としての務めを果たすこととする。音楽棟の安全・資産管理、予算の発案管理に積極的に参与する。③入試業務における役割分担を責任を持って遂行する。		0.07	①左記の業務を行った。自らが出張等で欠席の場合は前もって代理出席を他教員に依頼した。②左記の業務を責任を持って積極的に遂行した。特にオープンキャンパスにおいて、説明を務め、その説明を聞いた社会人が当専修を受験し合格し、平成30年度より院に進学予定となった。③同上。特に後期日程では、一括入試(3月12日)の面接官を務めることとなった。
就職支援	0.03	①就職関係:就職、教員採用試験関連の諸行事に関して、研究科主任として各年次指導教員、音楽科学生へのインフォメーション呼びかけを積極的に行う②音楽療法的フィールドへの在学生の積極的なボランティア参加を促し、施設関係者への学生の資質アピールに努める。③音楽療法関係活動を推進する。		0.03	①左記の業務を積極的に行った。②今年度は、沖縄音楽療法研究会1月度例会のワークショップ担当講師を務め、県内より集まった30名以上の受講生に対して、呼吸法・発声法、歌唱指導及びギター奏法の基礎、弾き歌いの技術等の教授に務めた。院生として受け持ちの音楽療法系の学生は今年度はいなかったが上記ワークショップの準備の手伝いを学生に要請し、音楽療法への関心の向上に務めた。準備では、その監督と助言を行った。③特に、附属病院ロビーにおける「癒しのコンサート」を学生とともに企画運営し、自らも音楽科の他教員とともに当日の演奏と解説を行った。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岡本 牧子	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.35	講義における採用試験対策の実施、2年次指導教員として履修指導		0.35	教育法の講義における採用試験対策を実施したほか、2年次指導教員として履修指導やインターンシップの手続き等を行った。「基礎製図」の講義を用いて初年次教育を行い、3DCADと3Dプリンターを用いた作品の協働製作をテーマとした協同的な学習の授業を展開した。授業での様子や講義の内容は2018年3月の実践センターの紀要に投稿した。教職実践演習で農学部と合同で北部農林高校へ視察へ行き、次期学習指導要領で必修となる飼育分野の強化をはかった。	
研究	0.35	技術教育分野での学会誌への投稿 機械工学分野での研究立ち上げ		0.35	大宜味小学校の卒業証書製作に携わり、芭蕉からの紙漉き工程をSTEM教育と絡めた教育プログラムとして展開できた。またレーザー加工機を導入することにより、紙漉きと機械工学分野を融合させた新しいテーマに取り組むことができた。科研のテーマとなっているアオガンピの発芽に成功し、温度や土中水分量などの栽培管理データの計測環境を整備することができた。	
社会 貢献	0.15	青少年科学作品展科学教室への出展		0.15	附属小学校のプログラミングクラブの指導を行った。大宜味村教育委員会主催の生涯教育講座で紙漉きをテーマとした講座の講師を務めた。那覇市教育事務所主催の小学校情報担当者向けのプログラミング講習で講師を務めた。青少年科学作品展の科学教室へ出展、アメリカンスクール分野の審査委員を務めた。OISTと琉球大学共催の「サイエンスプロジェクトfor琉球ガールズ」(2018.3.24-5)にて講演を行う予定。	
管理 運営	0.15	入試委員、研究推進委員を担当		0.15	入試委員を担当したほか、全学の研究推進委員、ダイバーシティ委員会委員、島嶼防災センター併任教員を担当した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		島袋 純	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	授業のコマ数を可能な限り削減する。最大で週7コマ以内に抑える。沖縄島嶼教育コース2年次担当教員として、2年次の履修指導、学業支援、学生生活支援等、包括的なささえを行う。			0.60	授業のコマ数を削減することができないどころか、増えてしまった。学部改組による授業負担の増大と休職教員の授業について非常勤講師を充てる費用がないという大学及び学部の事情による。2年次指導教員としては、学生の支援と支えを行うことができた。		
研究	0.40	新しく取り組み始めた国際人権法の分野についての研究をさらに推進する。就業時間の半分、週に20時間以上を研究時間として確保することを目標とする。そのため、他の業務の比重を可能な限り削減する。			0.20	国際人権法の研究を進め論文を執筆することができたが、最大の目標である就業時間の半分、20時間以上を研究時間として確保することができなかった。その主たる理由は授業時間の大学学部の事情によるものである。		
社会 貢献	0.10	国際人権法を用いて、国連の国際人権法関係の諸機関に直接研究成果を用いた報告書を提出する。そこに比重を置くため、他の社会的貢献を可能な限り自粛する。			0.10	県や市町村の委員会委員、編集委員など、かなり削減することができ、また新聞や雑誌からの原稿依頼も断り、国連に国際人権法の報告書を提出する活動ができた。		
管理 運営	0.10	委員会委員等は、与えられた職務は十分に責任を果たす。可能な限り、時間を削減し、職務を効率よく行うこととする。			0.10	学部委員会の職務については、入試委員会委員として職務を遂行できた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		緒方 茂樹	所 属	教育学部 教育実践学	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	1)学部4年生4名、特別専攻科学生4名、合計8名に対する卒論指導。今年度も昨年に引き続き、ゼミを少人数にしてクラス分けを行い、学生のニーズに応じた手厚い指導を行う。また必要に応じて学校現場あるいは教育行政機関などに学生を引率しながら経験を積ませ、実践的な内容を卒業論文等に盛り込めるよう指導する。2)特別専攻科については生理・病理の他に教育観察に関わる授業担当を新たに行う。実践学専修においては今年からフィールドワーク2の責任者となる。		0.30	十分に達成できた	
研究	0.30	1)宮古圏域における特別支援教育ネットワーク構築に関する研究。2)子どもの発達と音楽活動の関わりに関する評価ツールの作成に関わる研究。3)藤森法を応用した脳波分析に関する研究。以上3つを柱として研究を進めていく。その他、今年度は教職大学院の教員と協力して、新たに病弱教育とシステム教育学に関わる研究にも力を入れる。		0.30	達成できた	
社会 貢献	0.10	1)沖縄県あるいは宮古圏域における教育・福祉行政事業への積極的参加。2)沖縄県教育委員会、沖縄県総合教育センター、あるいは学校単位の校内研修会等引き受け、県内の特別支援教育の推進に貢献する。		0.10	達成できた	
管理 運営	0.25	1)学部運営委員として、学部の管理・運営に関わる職務を遂行する。2)附属発達支援教育実践センター長として職務を遂行する。3)今年度から新組織である教育学専攻の一年次担任として、学生指導を行う。		0.25	達成できた	
	0.05	過卒生、現役学生併せて、教員採用試験に向けた進路指導等の機会を設ける。		0.05	達成できた	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮城 政也	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	学部:「共通教育:スポーツ科学演習」「体育」「卒業研究ⅠⅡ」「学校保健」「メンタルマネジメント」「生涯スポーツ実技」「ゼミナール」について、それぞれの達成目標の具現化に取り組む。大学院:「学校保健学特論Ⅱ」「学校保健学特論演習Ⅱ」について達成目標の具現化に取り組む。学生の就職(教採),進学に関する計画的指導の実施			0.35	概ね達成。授業評価等を参照し,更なる授業の充実を図る		
研究	0.35	科研費(基盤B,萌芽)について,計画的な推進。それに関連して論文5編(筆頭2,共同3),学会報告(日本健康教育学会,日本学校保健学会,ほか)4件程度を予定。			0.35	概ね達成。更なる研究活動の充実		
社会 貢献	0.15	1.沖縄県健康沖縄21(第2次)「中間評価」分野別委員会,総括委員会委員。2.沖縄県スポーツ推進審議会審議員。3.沖縄県児童生徒の体力向上推進委員会委員長。沖縄県スポーツ医・科学委員会委員。3.教員免許更新講習。4.教員経験者研修等に対する積極的な貢献			0.15	概ね達成		
管理 運営	0.15	○琉球大学遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会 ○学生生活委員会			0.15	概ね達成		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には,右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		笹澤 吉明	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	学部における「社会福祉概論」「衛生・公衆衛生学」「健康管理学概論」「サッカー」「卒業研究」、大学院における「学校保健学特論」、共通教育における「サッカー実技」「フットサル」の全コマを遂行する。教員免許更新講習を開講する。学内の科研費申請書作成のアドバイザー。琉球大学サッカー部の監督として学生を指導する。国立台湾体育運動大学(趙学部長)とのサッカー国際交流。教員志望者への指導、大学院進学志望者への指導、一般企業志望者への指導を適宜行う。			0.30	学部・大学院の講義・実技を滞りなく遂行した。教員免許更新講習は「睡眠教育」「疫学」「サッカー実技」の計4コマを実施した。学内の科研申請のアドバイザーを務めた。琉大サッカー部の監督を務め、学生をアジア大会に参加させ指導した。国立台湾体育運動大学とのサッカーの国際交流を行った。学生の進路指導を適宜行った(高校教諭1名、企業4名、郵便局1名等)。		
研究	0.30	科研基盤研究C「親子で取り組む電子睡眠改善プログラムの開発及びその疫学的検証」に取り組む。アプリケーションを開発し親子にパイロットスタディを行う。基盤研究B「睡眠教育パッケージの開発と教育現場における改善効果の検証」に取り組む。「嘉手納飛行場周辺騒音度調査遂行(防衛省)。医歯薬出版の「衛生・公衆衛生学」の改訂。日本音響学会編 音響学講座を分担執筆。			0.30	「親子で取り組む電子睡眠改善プログラムの開発及びその疫学的検証(基盤C)」の遂行及び学会発表。「睡眠教育パッケージの開発と教育現場における改善効果の検証(基盤B)」の遂行。嘉手納飛行場周辺騒音度調査、辺野古基地の低周波調査の遂行(防衛省)。医歯薬出版の「衛生・公衆衛生学」の改訂。日本音響学会編音響学講座を分担執筆。原著論文3編。		
社会貢献	0.25	沖縄県教育委員会家庭教育推進委員会委員。防衛省請負業務の「嘉手納飛行場周辺騒音度調査」委員。防衛省、国土交通省、環境省の学術アドバイザー。公開講座「琉大生がサッカーと勉強を教えます！」の代表講師。その他、県内外で「寝る子はでいきやーないんどー」講演。アドバイザー講師。			0.25	沖縄県教育委員会家庭教育推進委員会委員、防衛省請負業務の「嘉手納飛行場周辺騒音度調査」委員、「航空機低周波評価」委員を務めた。公開講座「琉大生がサッカーと勉強を教えます！」を遂行(年間30回)。県内外で「寝る子はでいきやーないんどー」講演した(現在12回、アドバイザー講師含む)。		
管理運営	0.15	生涯健康教育コース主任。全学の科研費申請書作成アドバイザー。			0.15	生涯健康教育コース主任、全学の科研費申請書作成アドバイザーを滞りなく務めた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉田 悦治	所 属	教育学部 学校教育専攻 子ども教育開発専修	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	多様な現場での教育実践を通して、実践力の基礎を育て、表現活動から生まれる学びの創造性について考究する授業に取り組む。認定試験の問題作成等、教員採用試験に向けた進路支援に取り組む。		0.30	泡瀬小学校(沖縄市)、中城南小学校(中城村)、附属小学校(西原町)、一番街商店街(沖縄市)、座間味島(座間味村)でのワークショップ実践等において、学びの場作りや教材開発を中心とした演習授業に取り組んだ。新専攻の初年次科目において、担当科目以外も協力し授業を行った。また、認定試験の問題作成、教員採用試験対策として指導案作成・模擬授業等の指導に取り組んだ。	
研究	0.20	子どもを含む多様な人々と地域を繋ぐ教育・文化実践の可能性を探求する。主に「場」から生まれる創造活動を実践を通して研究する。		0.20	「うみ」「シマ」をモチーフにした実践研究を継続させると共に、幼児教育まで視野を広げ、子どもと地域を繋ぐ教育・文化実践の可能性を探求することに取り組んだ。さらに、「光・影」をモチーフにした教材開発や江戸時代の「立版古」を発展させた新たな教材研究にも取り組んだ。	
社会 貢献	0.20	授業研究会での指導助言や県内における美術・造形教育に関わる支援に取り組む。		0.20	附属小・中学校での授業研究会、中城南小学校での訪問授業の実施・校内研での絵の具の描画指導における指導助言を行った。また、障害者週間ポスター審査員等で特別支援教育の支援・障がい者福祉の向上推進にも取り組んだ。	
管理 運営	0.30	子ども教育開発専修・子ども地域教育コース・美術教育専修の教室運営において、業務が円滑に行われるよう取り組む。		0.30	子ども教育開発専修・子ども地域教育コース・美術教育専修の教室運営において、業務が円滑に行われるよう取り組んだ。また、新カリキュラムの実践系科目における授業デザイン及びコーディネートに取り組んだ。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 昇	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.25	文科省の掲げる主体的で、対話のある、深い学びのある授業展開を目指し、行動科学や行動経済学を基礎とした健康教育プログラムの実践検証を進める。ライフスキル教育を活用した講義プログラムを改良し実践する。学校・地域健康教育を広げるためライフスキル教育・行動科学・行動経済学を基礎とした健康教育をJICA海外研修プログラムへ活用し貢献する。		0.20	文科省の掲げる主体的で、対話のある、深い学びのある授業展開を目指し、行動科学や行動経済学を基礎とした健康教育プログラムの構築と実践検証を進め、附属学校に提供した。ライフスキル教育を活用した講義プログラムを改良し、学校・地域健康教育を広げるためライフスキル教育・行動科学・行動経済学を基礎とした健康教育をJICA海外研修プログラムへ活用し貢献した。	
研究	0.30	宜野湾市・読谷村(介護予防事業)の受託研究を引き続き受けるとともに、市町村民の健康づくり・介護予防事業を推進する。昨年度まで展開した沖縄県一括交付金事業健康行動実証モデル事業の後継事業として、健康行動実践モデル展開促進事業に関する研究と実践を推進する(県内41市町村対象)。		0.20	宜野湾市・読谷村(介護予防事業)の受託研究を引き続き受け、市町村民の健康づくり・介護予防事業を推進した。昨年度まで展開した沖縄県一括交付金事業健康行動実証モデル事業の後継事業としての健康行動実践モデル展開促進事業として、県内41市町村を巡回し実証事業の成果報告を行うとともに、県内2地域・2小学校にて実践検証を行った。3月には、この6年間の成果として、県内全市町村への普及展開に資するため実践マニュアル書を配布する予定である。	
社会 貢献	0.20	ひきつづき西原町・うるま市・宜野湾市健康づくり推進会議委員、宜野湾市国保運営協議会会長、地域密着型サービス運営委員として努める。JICAアフリカ、中南米地域母子保健強化コース講師として協力する。沖縄県健康2010の栄養・運動部会の委員長として中間評価を実施する。		0.10	西原町・うるま市(会長)・宜野湾市健康づくり推進会議委員、宜野湾市国保運営協議会(会長)、地域密着型サービス運営委員及び北谷町高齢福祉基本計画評価委員会(委員長)として運営にあたった。JICAアフリカ、中南米地域母子保健強化コース講師として海外研修生の資質向上に貢献した。沖縄県健康2010の栄養・運動部会の委員長として中間評価を実施した。	
管理 運営	0.15	生涯教育課程心理臨床科学コースの主任として運営にあたる。		0.30	生涯教育課程心理臨床科学コースの主任としてコース運営にあたった。	
進路 指導	0.10	コース・ゼミ学生の進路指導や就職活動に努める。学部学生・院生の指導にあたる(2年次指導教員)。		0.20	コース・ゼミ学生の履修指導、進路指導、就職活動等にあたった。学部学生・院生の卒論・修論指導にあたった。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	富永 篤		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	学生が面白く、わかりやすいと感じられる内容を目指し、また講義、実験のレベルも一定水準以上のものになるように努力する。卒業後、必要とされるスキルや能力を身につけられるような講義、実習を行う。考える力を養う。研究室の学生、大学院生の就職、進学支援の相談にのり、目標実現のために可能な限り協力する。		0.30	年次指導教員として、1年生の大学生活をサポートし、今のところ全員が大きな問題も無く大学生活を過ごしているようである。学部の学生向けの講義や実験では、その時間が、受講するすべての学生にとって実りある時間になるようにレベルや内容などに配慮し、また教育現場で役立つ情報や経験を提供できるように心がけた。研究室の学生に対しても、研究、進路指導を含め積極的に関わり、一人一人にきめ細やかな対応を心がけた。	
研究	0.50	系統分類、系統地理、生態に関する研究について学術論文2報の発表を目標とし、学会で発表を行う。今年度から採択された科研費の研究課題の成果発表を心がける。新たな外部資金の獲得のため、学内競争的予算の獲得を目指し、新規研究分野の準備を進める。		0.45	科研費研究課題は順調に進んでいる。専門分野の国際誌に3報が受理または掲載された。そのうち1報は科研費関連である。和文誌に1報が掲載された。国内学会で自ら2回発表した。学生との共同研究発表は1回だった。学内プロジェクト経費に1件採択された。学外競争的獲得資金には1件応募中である。	
社会 貢献	0.15	小、中、高等学校との連携、環境教育活動、自然環境の保全活動へ積極的に参加、関与する。特に希少種保全、外来種対策に貢献する。また所属学会の各種役職を仕事が滞ることのないようにこなしていく。		0.20	4学会(研究会)の英文誌編集委員、庶務幹事*2、運営委員、評議員を担当した。2018年3月に沖縄で開催される研究会の年次大会で実行委員として大会準備を進めている。環境省外来種対策に助言をした他、県外来種対策検討会の委員を担当した。附属中の共同研究者として協力した。	
管理 運営	0.05	担当する全学の委員会、学部の委員会の会議にできるだけ出席し、委員会の運営のために尽力する。		0.05	学部の委員会の委員、全学の委員会の委員として、求められる職務をこなした。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		照屋 俊明	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	化学の講義では小テストを複数回行う事で、理解度を深める。また学生実験では身の回りにある材料を用いた実験を行い、生徒の興味を引き出すよう心掛ける。また研究室に配属された修士学生1名、学部生2名と密にディスカッションし、学生の希望、目標などを把握し本人の希望に沿った進路に進むことが出来るよう適時助言する。			0.25	化学の講義では定期的に小テストを行う事で理解度を深めるよう努めた。また学生実験では学内で植物を採集し、その色素の単離を行った。実際に見える植物の色素の色とは異なった色の色素が分離出来た様子に興味を示す学生が多かった。また修士課程2年次、4年生2人の研究指導した。研究報告会を週1回行い、それぞれが本年度の課題を遂行した。		
研究	0.55	沖縄県委託事業である「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業(沖縄産海洋生物を用いた新規海洋天然物ライブラリー構築および創薬への活用)」において、海洋生物からの薬理活性物質のたんさくをおこなう。			0.55	沖縄県委託事業である「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」、「成長分野リーディングプロジェクト創出事業」で研究統括として研究を遂行した。		
社会 貢献	0.10	沖縄産の海洋生物に含まれる薬理活性物質を明らかにすることで、未利用海洋資源の付加価値を高めることが出来ると考えられる。			0.10	沖縄の植物と海洋ラン藻に含まれる化合物をそれぞれ単離し、新たな薬理活性を見出した。この結果は沖縄県の未利用資源に付加価値を高めることが出来たと考えられる。		
管理 運営	0.10	自然環境科学教育コースの教育実習委員としての職務を遂行する。			0.10	自然環境科学教育コースの教育実習委員としての職務、地域連携推進機構産学官連携部門の委員としての職務を遂行した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			